

PACK ON No.16



CONTENTS



岡山細胞検査士会のロゴマークができました！

とほほ...な新シリーズに突入！

前口上

体当たりレポート

胃検診 & 初胃カメラ体験記

講演会プレイバック

ベセスダシステム完全制覇

1. 扁平上皮系
2. 腺系
3. 総合

好評連載

宮尾行雄の うんちく三昧 **今回のお題** 「なまえ 名前 ことば」

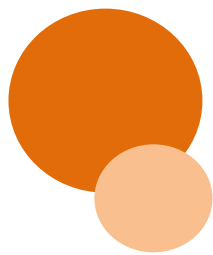
危険な香りのPCオタク K's Presents

コンピュータ・ワンダーランド2009-2010

語りたおして、はや5年！

大講釈「超個人的音楽論」

青春歌年鑑/70年代ベスト40・Part5《完結編》



前口上

いわゆる「四〇肩、五〇肩」という名の、しばしば中高年に発生する肩関節疾患がある。「どうも最近、四〇肩で弱っとります」と白状してみたり、「腕がねえ、このへんまでしか上がらなくてねえ」なあって言いながら実演してみせたりすると、皆さん結構笑ってくださるのだが、実際患ってみてわかったのは、とてもじゃないけどお笑いネタどころではない、深刻な状況がそこにある、ということであった。

「四〇肩、五〇肩」は実につらい。なった人にしかわからないつらさがある。けれど、傍目にはなんだか切迫感が伝わらず、笑われちゃったりするのである。これは、たとえば「痔」(こちらは患っていないので実感としてはわからないが...)などと近い、「笑いごとじゃないが笑いネタにされる」疾患に分類される、どうにも困っちゃう病気のわけである。

前回、数年にわたってシリーズでお送りしてきた「嘆きの尿酸値」が、なんとなく落ち着いて(予断は許さないながらも)ひと段落ついたところで、今回より新シリーズ「哀しみの四〇肩」のスタートである。とほほ。

それは、ちょうど1年前の年明けのことであった。我が家では、居間の食卓テーブル(座卓)の横にゴミ箱が置いてある。このゴミ箱、私が食卓テーブルの定位置に着くと、ちょうど左斜め後ろに位置し、手を伸ばせば簡単に届く距離にある。その日、私はいつものとおり、食卓に陣取り、テーブルの上のゴミを手にとって、ゴミ箱に入れようとした。もちろんゴミ箱の位置は、見なくても頭に入っている。私はテーブルのほうに向ったまま、左腕を左斜め後ろのゴミ箱へと伸ばした(つもりだった)。「んっ?!」手がゴミ箱に届かない。無理に後ろへ伸ばそうとすると、肩口に痛みが走る。「なんじゃ、こりゃ〜っ!」と叫んだ松田優作のようなリアクションをとるほどに衝撃的でもなかったのではあるが、なんだかいや〜な予感。その後、この予感は大いに的中するところとなったのだった。

翌日から、左肩の痛みは徐々に増していった。ゆっくりと動かしているぶんには、まださほどの痛さでもないのだが、とっさに左腕を伸ばして何かを支えるような動作(たとえば、車を運転中、ブレーキをかけた瞬間に助手席の荷物が前へ落ちそうになって、ぱっと左手を伸ばして防ごうとする、みたいな)をとった瞬間の痛み方は、筆舌に尽くしがたいものであった。実際、痛みが過ぎ去るのを車の中でじっとうずくまって耐えたのも幾たびか。この時期、もうひとつ大変だったのは寝るときの姿勢。何しろ、仰向けに寝られない。転がってしばらくすると、肩の周辺が痛いようなしびれるような感じで、いても立ってもいられなくなる。で、寝返りを打って、左肩に激痛。しばらくうずくまる。またじわじわとしびれ感が出てきて寝返り。激痛…。こんな調子で夜が明ける。これには、ほとんど弱

り果てた。

ことここに至り、「まあそのうち治まるんじゃないだろうか」とのんきに構えていた私も、いささかの危機感にかられ、ついに整骨院の門をくぐることにした。整骨院に行きさえすれば、ぱぱぱっと治療してくれて、湿布かなんか貼られて、渡された薬飲んで、1週間ほどで軽快するだろう。てな、淡い期待は、この後、整骨院の診察室でもろくも崩れ去ることになる。

「ちょっと手をあげてみて」と長谷川先生（50年配、むかし柔道かなんかやってた感じの整骨師）が言われるので、ラジオ体操の深呼吸のようにジワリジワリと左腕を前から上に。前にならえの状態から45度あげたところで止まる。これ以上は痛くてあがらない。「はい、じゃ次は横からあげてみて」。腕は水平になったところでストップ。これ以上、痛くてあがらない。そのあと、左肩から肩甲骨あたりをぐりぐり触っていた長谷川先生は、おもむろにこうおっしゃった。「こりゃ典型的な四〇肩じゃな」。

長谷川先生いわく、四〇肩、五〇肩というのは多くの場合、肩関節周辺の骨をつないでいる腱の炎症なのだそうだ。腱が何らかの余分な負荷を受けて、引っ張られたりよじれたりすることにより損傷し、そこに炎症が発生する。この症状が特異的（でもないけど...）に中高年に発生しやすい理由は、その年代に筋力が低下するからである。つまり、若い時には筋肉がしっかりと腱を支えていて多少の負荷がかかっても腱は損傷しないのだが、年とともに筋力が低下してくると筋肉が腱を支えきれないので、ちょっとしたことで損傷 炎症 痛み（しかも治り遅し）という図式が成立する。

なるほど、理屈はわかった。一応、診断も確定した。では、これから先、それを直すために私はどうしたらよいのだろうか。ねえ、長谷川先生。

長谷川先生はニヤリと笑い、私に以下のような諸注意ならびに指令をお与えになった。

温めてもいいが、決して冷やしてはいけない。

腕が引っ張られるような方向に力をかけてはいけない。

がまんできるなら、痛くても動かせ。

筋肉をつける。

は簡単である。もともと寒いところは嫌だし、普通に生活していればクリアできそう。長谷川先生は「とくに夏場のエアコンの冷風には気をつけるように」という。夏場のエアコンにはまだずいぶんと間があるが、ひよっとしたらそんな時期まで、この状態が続くということなのであろうか...（不安）。もそんなに難しいことではない。意識していれば防げるであろう。長谷川先生は「絶対、鉄棒にぶら下がったりはしないように」と言われたが、腕がまっすぐ上がらないのだから、鉄棒にぶら下がるのは無理だ。も、まあ何とかなるだろう。動かす方向によっては痛いけど、それは限られている。さて、問題は、筋肉をつける方法はいくつか思いつくが、いずれにしても2、3日で（いや、1週間、いや1か月かけても）何とかなるかどうかわからない。しかし、ここは覚悟を決めるしかなさそう。 「フジタさん、腕立て伏せできる？」と長谷川先生。さいわい、腕立て伏せの動作を行っても肩に痛みはない。「どのくらいやったらいいですか？」と聞くと、「どんどんやって」。かくして私の「腕立て伏せどンドン生活」がスタートしたのであった。（つづく）

検診の実際を体当たりレポート！



初

胃検診 & 胃カメラ体験記

皆さんも職場などで年に1~2回は健康診断を受けられているのではありませんか？

私の職場でも年2回(春・秋)健康診断が行われています。

H21 春の健康診断では、ヘリコバクター検査が行われました。(35 才以上)

幸か??不幸か??35 才の私も検査該当者でした。(…トシのことは書きたくなかった)

ヘリコバクター検査 とは・・・

血中のヘリコバクター濃度を測定することによって胃粘膜の委縮を調べる検査。

同時にヘリコバクター抗体の検査をして結果が判定されます。

多くの胃癌は胃粘膜の委縮を経て発生するといわれるため

ヘリコバクター陽性の方は陰性の人より高い確率で胃癌などの病気が発見されると言われています。

おなじみのピロリ菌は胃潰瘍、十二指腸潰瘍の主な原因といわれ、潰瘍の再発予防に効果があるとされ

2000 年には除菌治療が保険適応になりました。

ストレスや食べ過ぎなどで胃粘膜は、次第に委縮し、胃粘膜が薄くなると血中のヘリコバクター濃度が減ります。

また、**ピロリ菌** については

日本人の40歳以上では7~8割の人が感染しているといわれており、この菌に感染していると炎症が起きることが多く、潰瘍やがんの原因のひとつと考えられています。

ヘリコバクター抗体は過去の感染でも陽性となる場合があります。

胃検診と言えば、胃透視が多く実施されていますね。

(経験がないので分かりませんが…バリウム飲むのはツライとよく聞きます)

比較するとヘリコバクター検査は採血で測定可能なので、そこは利点でしょうか？

～～以下に、今回の私の検査結果を公開します～～

検査結果

ヘリコバクター・ピロリ抗体	(-)			(-)
ペプシノゲン検査				(2+)
PG I	70.1以上	ng/ml		39.9
PG II		ng/ml		13.3
PG I /PG II	3.1以上			3.0
胃検診判定	A		5	C2

結果の見方

【判定解釈】

A ヘリコバクター・ピロリ菌の感染も胃の萎縮もなく現時点では健康な胃と判断されます。症状がなければ、胃の精密検査は5年毎程度でよいとされています。

B ヘリコバクター・ピロリ菌の感染が疑われ、潰瘍疾患になりやすい状態といえます。一度精密検査を実施し、ピロリ菌感染があれば除菌しましょう。胃の精密検査は2～3年毎に1度は実施するべきといわれています。

C 萎縮性胃炎が疑われる状態です。胃癌がん発見率が高く、少なくとも年に1度は精密検査を実施してほしい場合です。さらにC1群よりC2群の方がリスクは高いといわれています。C1群はピロリ除菌をすれば、ペプシノゲン異常も改善する可能性があります。

【ABC検診グループ分類】

		ヘリコバクター・ピロリ抗体	
		陰性(-)	陽性(+)
ペプシノゲン検査	陰性(-)	A	B
	陽性(+)	C2	C1

C2は 萎縮性胃炎が疑われる状態です。

最もがん発見率が高く、少なくとも年1度は精密検査を実施してほしい場合です。

さらにC1群よりC2群のほうがリスクは高いといわれています。

C1群はピロリ除菌をすれば、ペプシノゲン異常も改善する可能性があります。

え??要精密検査?? (判定5は要精査です)

体調も悪くないのにいちばん悪い判定って…

今回C2判定がついたのは192人検査中7人(4%)だったようで、わたしもその一人。

(自分にコレステロール高値以外の異常があるとは思いませんでした…)

胃に関しては、まったく自覚症状もないし…これは良くないパターンでは??

知らない間に、胃粘膜萎縮?? (これってストレスのせい?? (-_-)??)

(T_T) …とりあえず次の検診までに内視鏡検査受けておくか… (T_T)

なにもないことを願いつつ検査予約をしました。

(とりあえず胃に可能な限り刺激物を与えまいと思い、半年間くらい、健康に良いと思って続けていた

りんご酢の飲用もやめてみました。)

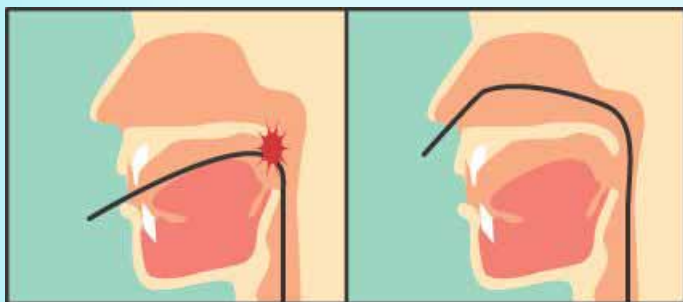
そのような訳で、初の(!)胃カメラを飲みました。(・_・;)

いつもは健康診断に来られた方に検査の説明をしたり、ご案内させていただいたりしていましたが
・・・自分がそちらの立場になろうとは思いませんでした。

ああ緊張。(自分のことになると非常に小心者。)

経験者の話を聞くと

「バリウムに比べたら、つらくない！大丈夫！」という心強い(?)意見や
「経鼻がオエツとならなくていいよ！」という意見が多数派ではありました。



鼻の方が楽かな？

希望すれば経鼻でも可能だったのですが、今回は経口で検査を受けてきました。

まず検査にあたって・・・

前日 21 時以降は絶食。

検査前に胃内粘液の溶解除去剤を飲まされる(・・・マズイ・・・)

これは胃腸の内部をきれいにし、検査の精度を高める役割のため。

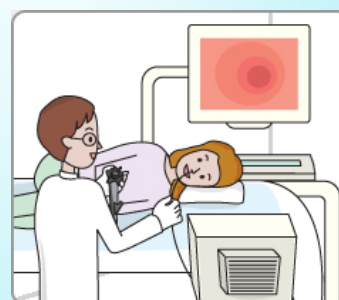
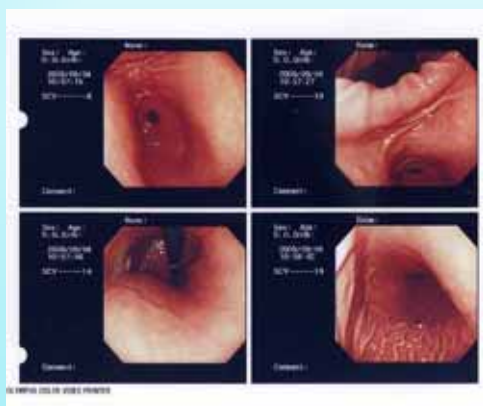
次にキシロカインで喉に麻酔をされる。

少し眠くなる薬(検査が楽に受けられるように)も希望したので

これも検査前に注射される。

それで、いざ検査・・・(右はイメージ画)

そのとき撮影された写真が下。



悪いところはなかった！よし！これで安心・・・

このように書いてしまうと、さらっと検査が終わったような感じですけど、実際のところ、全くスムーズにカメラをのみこむことはできず半泣き状態。

(イメージ画像のような 余裕の表情では全くなかった…)

あとでカルテのぞいたら 嘔吐反射 っって書いてありました。

(この検査できれば避けたい、というのが私の正直な感想ですが、検査時間は 15 分程度ですしスムーズにのめる人もいるのであまり怖がらなくても大丈夫かと思えます。)

眠くなる薬というのが私にはあまり効かなかったと思う。

終わった後もしんどかったけど、別に眠くはなかった。

ほんとにぐっすり眠る方もいらっしゃるので、これについては、かなり個人差があると思われる。そんな状況のため、検査中に画像を確認することは全くできなかったです。(情けない…)

私の場合もですが、

ペプシノゲン検査の結果が悪かったからと言って、病変があるとは限りません。

(もちろんフォローは必要ですが)深刻になりすぎなくてもいいのではないかと思いました。

検診という意味では

胃透視での検査では直接的に観察が可能ですので、そちらのほうがいいかもしれないとも思いますし、検診として胃カメラ検査をする方もおられますので実際様々ですね。

このペプシノゲン検査については

明らかに消化器症状のある時やピロリ除菌中、胃切除後などに検査を行うと正しい結果が得られないことがあるので、注意も必要です。

とはいえ、採血するだけで測定できる検査なので、一度測ってみられても良いかと思えます。

さいごに…一言

私は胃痛や嘔吐などの消化器症状をもよおすことは非常に少ないほうだと思っています。

この採血をしたときも体調は普通でした。

でも、このような検査結果がでることもあるということです。

検診でひっかかってしまったおかげ(?)で、

(さいわいなことに内視鏡の結果、何事もなかったので)

この体験記を書くことにしました。

少しでも参考になれば嬉しく思います。



(重松)

ベセスダ システム 完全制覇

是松元子氏（細胞検査士会学術委員長）来岡！
細胞検査士による細胞検査士のための
TBS講演会。

扁平上皮系



岡山大学病院/病理部
藤田 勝

腺系



川崎医科大学付属病院/病院病理部
星 榮

総合統括



埼玉社会保険病院/病理部
是松 元子

2009. 9. 27

ベセスダシステム完全制覇【扁平上皮系】

岡山大学病院病理部 藤田 勝

細胞検査士にとってベセスダシステムは敵か味方か

ベセスダシステム（以下、TBS）の運用が本邦においてスタートした。はたして TBS とは、われわれ細胞検査士にとって敵か、味方か。これはもう、圧倒的に「味方である」というのが TBS に対する私の認識である。

まず第 1 に、標本の適正・不適正を論じるどころから細胞診判定がスタートする、これは画期的な変革であると言える。判定基準に従った適正・不適正の見極めは必ずしも簡単ではないが、少なくとも「判断材料としてふさわしいものについてのみ判断すればよい」という環境が整ったことは、細胞検査士の精神衛生上、まことに好ましい。

第 2 に、扁平上皮系病変の判定に際しては、従来のクラス分類に比べて判定基準が大まかであり、細かな分類を強いられない（現状としては、クラス分類を併記する機会が多いため、従来どおりの、軽度異形成～上皮内癌を 3 ないし 4 段階で細かく分類する作業が軽減されたわけではないが...）。もちろん、どのような判定基準を設けようと、その境界線上に位置する微妙な所見の症例は存在する。それを、2 段階（Low か High か）のどちらかに振り分けるには、2 つにひとつの選択であるがゆえの、言ってみればギリギリの覚悟を要求される部分もあるが、私としては 2 段階の「簡便さ」に軍配をあげたい。

第 3 に（まさに、これこそが TBS の基本精神を表わしていると思われるが）、曖昧な異常所見を曖昧なままで許容するクライテリア（ASC-US、ASC-H）が設定されている。つまりこれらは、わからないものはわからないものとして判断を保留しつつも、ひとまず拾い上げるだけ拾い上げておき、その結果をもって次の一手につなげていけさえすればよい、といったスタンスのクライテリアである。

これまで、われわれ細胞検査士は子宮頸部細胞診に対して「いかにピンポイントに病変を言い当てるか（すなわち、組織診断にいかに近づけるか）」を目標に研鑽を深め、おおむねこの目標に到達してきた。その意味では、これまでどおりのクラス分類を存続させても、実業務的な部分に関する限り、本邦では何ら問題になることはないと思われる。しかしながら、TBS はすでにグローバル・スタンダードとして定着した現実があり、クラス分類を継続することは、いわば世界の潮流に竿刺すことにほかならず、学術的な意味においてはすでに問題が生じている。

以上のように、TBS の求めるものは「最低限、失敗しない細胞診」と心得て、われわれ細胞検査士は、その意味するところを見極めつつ「TBS を味方につける」努力を、まずは始めるべきであろう。

ベセスダシステムの真髄「ASC」

TBS の中核をなすクライテリアとして「ASC (ASC-US,ASC-H)」がある。前述のとおり、曖昧性を包含するクライテリアであり、この位置づけを理解することが何よりも TBS を理解することにつながるであろう。しばしば誤って認識されるのは、ASC を従来のクラス分類の順序だての中に組み込もうと考えてしまうことである。ASC は良性から悪性までのすべての領域にまたがるように存在するクライテリアなのであり、LSIL の手前に ASC-US を、HSIL の手前に ASC-H を段階的に組み込んだのでは、ASC の存在意義はない。この誤った並びとして理解したのでは、軽度異形成～上皮内癌あたりの区分けをさらにややこしくするだけである（図1）。

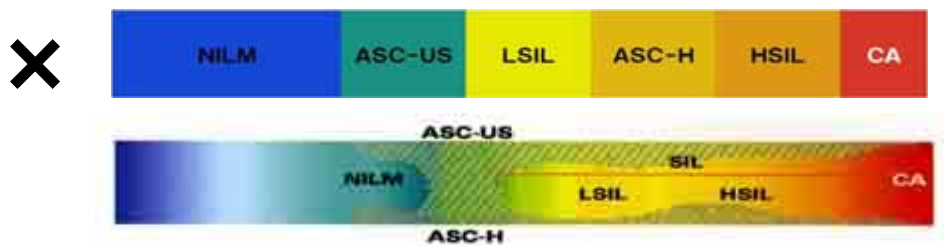


図1 誤解されやすいASCのスタンス

現在、子宮頸部細胞診の、とくに扁平上皮系の細胞診の対象となる病変は、主に HPV の感染に基づくものであることが知られている。HPV 感染による細胞の形態的な変化は様々であり、明らかな異型と認識できるものもあれば、ごく弱い所見で認識の難しいものも含まれる。TBS の基本精神が「最低限、失敗しない細胞診」であるとするなら、ごく弱い所見の HPV 感染細胞を（その細胞が本当に HPV 感染細胞か否かはともかくとして）ひとまずピックアップしておくことが次のステップに進むための手がかりとなり、それによって見落としを防ぐことができる（図2）。ここに ASC-US の存在意義がある。

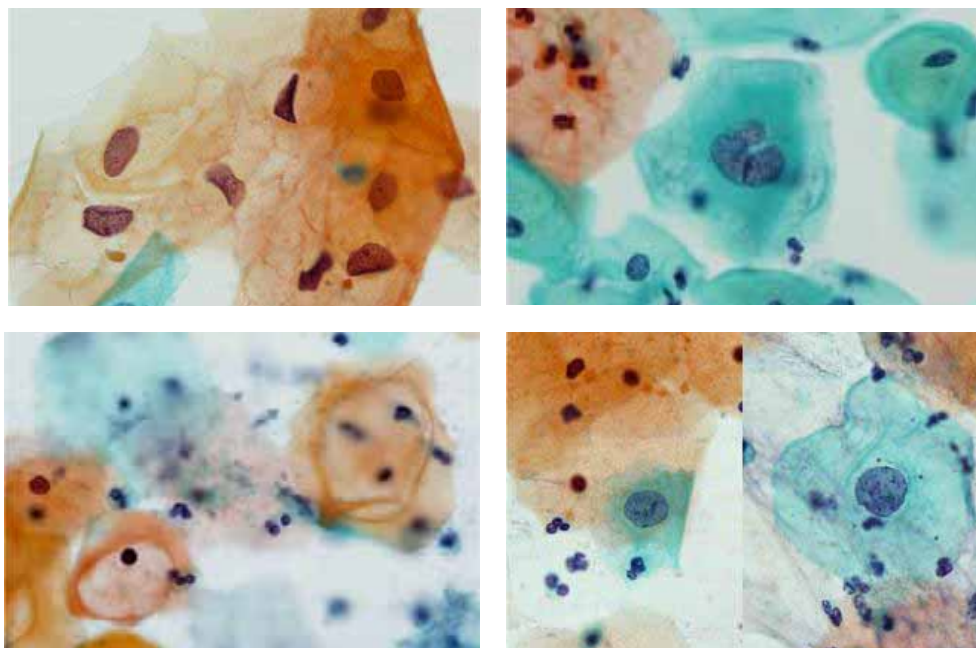
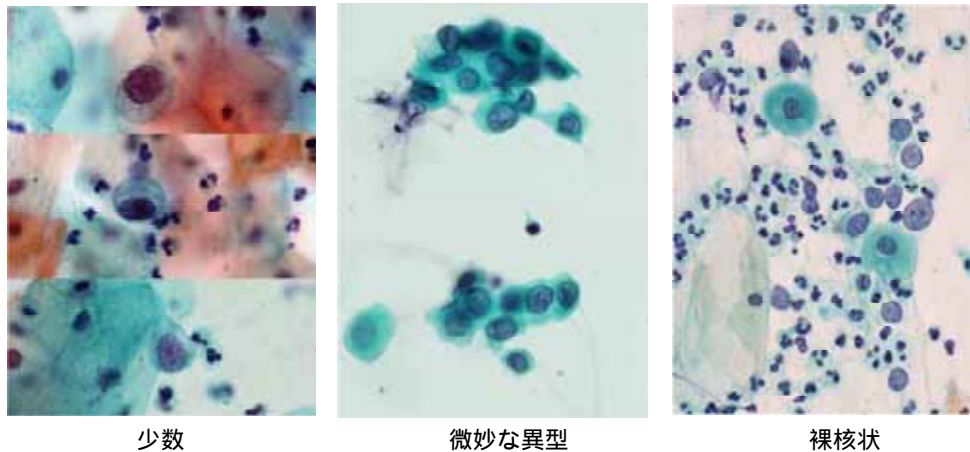


図2 とまかく拾え ASC-US

一方、ASC-H は、ASC-US とは根本的に異なり、ASC-US が異型度の曖昧性を許容したのに対して、少なくとも ASC-H と判定するからには、明確な細胞異型を見出す必要がある。すなわち、ASC-H に相当する細胞は、病変の確定的判定にはパワー不足であっても、けっして見落としてはならない細胞である。

ASC-H は、「HSIL を除外できない異型扁平上皮細胞」と定義される。経験的には、HSIL と確定できない原因の多くは、細胞数に基づく場合が多く、1枚の標本上に5個以内の単在性小型異型細胞の出現をみるのみであれば、HSIL との判断は難しい(「5個以内」という数字的な判断基準は個人的な見解による)。また、異型の判断に躊躇する散在性の裸核状細胞、もしくはそれらの集塊には、有用なクライテリアである(図3)。

細胞診の一般論として、異型細胞の「質的」な問題と「量的」な問題を混同すべきではないと考えるが、現実的にはこの2つの要素を切り離すことは困難であり、TBSにおいては、むしろひっくるめて判断することを推奨しているようにも思われる(「ASCとは個々の細胞に対してでなく、標本全体としての評価」といった文言がそれを裏付けている)。



少数

微妙な異型

裸核状

図3 ASC-Hのいろいろ

まとめ

TBS導入は、本邦の細胞検査士にいかなる影響を与えるだろうか。おそらく、導入して1年ほど経過し、なんとなくひと段落ついたところにわれわれは思うだろう、「なーんだ、たいして変わったわけじゃないんだ」と。細胞所見の判定区分がどう変わろうと、細胞所見のとらえ方が変わるわけではない。むしろ、これまでの細かな線引きからおおまかな線引きへと移行することは労力の軽減を意味する。問題は線の引きどころの変換作業をいかに明確にスムーズに行うことができるかということである。それはちょうど、仕様の異なる電子機器の間でデータをスムーズにやり取りするための「アダプター」の役割を見いだせるかどうかということであり、学会でのTBSに関する種々のプログラムや全国で開催されているワークショップなどは、まさにアダプターに相当するものであろう。「クラス分類」という名のデータが、よいアダプターによって的確に「TBS」という名のデータへと変換されたとき、TBSはわれわれ細胞検査士にとっての「味方」となりうるに違いない。

ベセスダシステムを加味した腺系病変の 病理組織および細胞の見方と捉え方

川崎医科大学附属病院 病院病理部

畠 榮

〒701-0192 岡山県倉敷市松島 577 番地

川崎医科大学附属病院 病院病理部

はじめに

子宮頸部扁平上皮系の剥離細胞診は最も古くから行われてきている。近年、扁平上皮系の病変はヒト乳頭腫ウイルス human papilloma virus (HPV) の関与が示唆され、形態学的変化と病態が理解され、診断がなされている。一方、子宮頸部腺癌は扁平上皮癌に比べ深い腺管から生ずることや、細胞所見に関する知見の集積が不十分な為に、腫瘍細胞が採取されているにもかかわらず細胞診学的に診断することが困難な症例が存在する。そこで、今回われわれは、ベセスダシステム¹⁾を加味した腺系病変の病理組織および細胞の見方と捉え方について述べる。

腺系病変

1. 腺の良性変化

良性変化で代表的なものとして化生性の病変が挙がる。ここでは、線毛化生ならびに腸上皮化生について述べる。線毛化生は卵管上皮化生とほぼ同義語として用いられている。線毛を有する円柱状の細胞と一部に栓細胞が認められる(図 1a)。一方、腸上皮化生細胞は消化管に認められる杯細胞や好銀性ならびに嗜銀性の細胞を認めることがある(図 1b)。

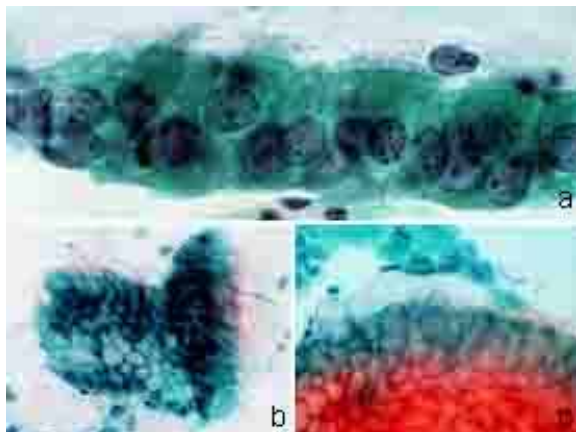


図 1 a,b,c: 線毛化生は卵管上皮化生とほぼ同義語として用いられている。線毛を有する円柱状の細胞と一部に栓細胞が認められる(図 a)。一方、腸上皮化生細胞は消化管に認められる杯細胞や好銀性ならびに嗜銀性の細胞を認めることがある。(Papanicolaou. stain. a × 20, b × 40, c × 20)

2. 異型腺細胞 atypical glandular cells

Bethesda System 2001 (final) での異型腺細胞 atypical glandular cells の判定基準を以下に示す¹⁾。

- ・核重積を示す平面的集塊あるいは小細胞集塊
 - ・核は正常子宮頸管腺細胞核の 3 ~ 5 倍程度の腫大
 - ・核の軽度の大小不同と不整
 - ・核クロマチンの軽度の増量
 - ・核小体の出現
 - ・核分裂像は稀
 - ・細胞質はかなり豊富であるが、N/C 比の増加
 - ・細胞境界の不明瞭化
- 等を挙げている¹⁾。

さらに、腫瘍性変化を疑う atypical glandular cells の判定基準は、上記の細胞所見に加えて

- ・細胞形態学は、質・量ともに子宮頸部上皮内腺癌あるいは浸潤癌のクライテリアを満足していない
 - ・希に、ロゼットや羽毛構造を呈する細胞集塊
 - ・時々認められる核分裂像
- 等の変化を挙げている。

3. 内頸部腺異形成 endocervical glandular dysplasia (EGD)

子宮頸部腺癌の前癌病変については良く知られていないが、その関連病変として腺異形成がある。Zaino は「腺異形成は存在すると思われるが、それがどのような生物学的特徴を有していくか、あるいは診断に再現性をもたせるにはどうしたらよいかを知っている者は、おそらくいないに違いない」と述べている²⁾。腺異形成は、報告者によって軽度腺異形成と高度腺異形成の 2 段階または軽度腺異形成、中等度腺異形成、高度腺異形成の 3 段階に分けられているが、後者の高度腺異形成には上皮内腺癌をも包含しているものもある³⁾。

軽度腺異形成では、核は正常上皮に比べて軽度腫大し、軽度過染性で細胞の基底側に一層に配列するが、時に軽度重積する(図 2a)。高度腺異形成では、核は紡錘形から卵円形で非常に密集している。核は腫大し N/C 比は大きく核過染性は著しい。核の

重積性は著しく2~3層を示し、しばしば核は腺腔表面に達する。核の配列の乱れは著しいが、核分裂はみられない。細胞内粘液は少なく腺腔表面に限られるかまたはみられない(図2b)。

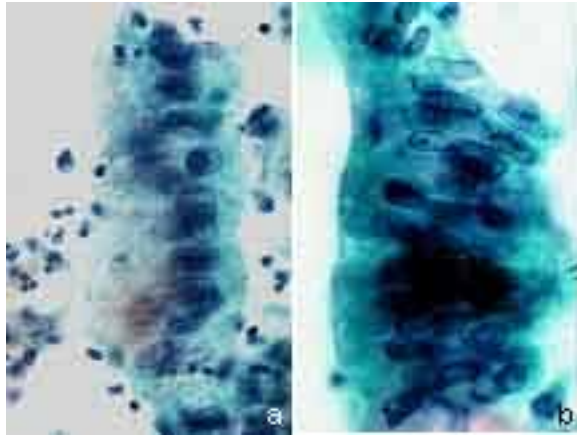


図2 a,b: 内頸部腺異形成 endocervical glandular dysplasia(EGD) 軽度腺異形成では、核は正常上皮に比べて軽度腫大し、軽度過染性で細胞の基底側に一層に配列するが、時に軽度重積する(図 a)。高度腺異形成では、核は紡錘形から卵円形で非常に密集している。核は腫大しN/C比は大きく核過染性は著しい。核の重積性は著しく2~3層を示し、しばしば核は腺腔表面に達する。核の配列の乱れは著しいが、核分裂はみられない。(Papanicolaou. stain. a x 40, b x 40)

4. 子宮頸部上皮内腺癌 Endocervical adenocarcinoma in situ(ACIS)

上皮内腺癌では、背景は炎症性が強くなり頸管腺細胞の立体構造では柵状配列(図3a,b,c)・腺房状構造などのほか、ロゼット形成を多く認める。

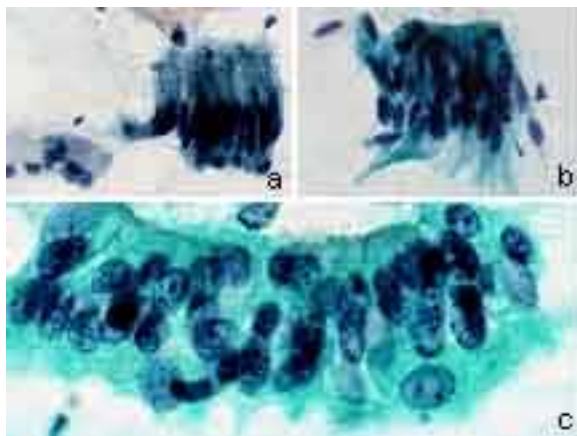


図3 a,b,c 子宮頸部上皮内腺癌 Endocervical adenocarcinoma in situ(ACIS) 上皮内腺癌では、核の偽重積を示す柵状配列を多く認める。(Papanicolaou. stain. a x 20, b x 20, c x 40)

核は均一に腫大し、細胞質からの突出や羽毛状構造がみられる(図4a,b)。上皮内腺癌は構成する上皮の種類により、内頸部型、類内膜型、腸型に分類される。

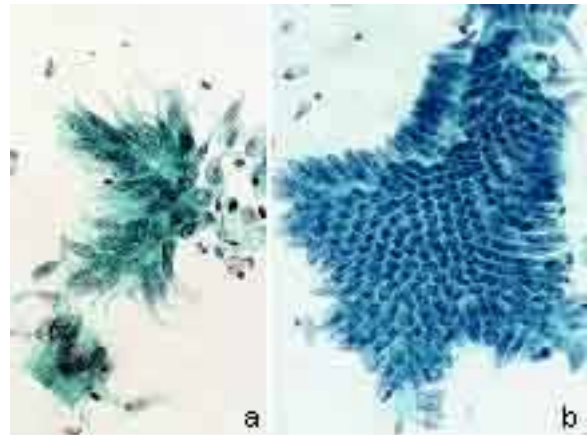


図4 a,b 子宮頸部上皮内腺癌 Endocervical adenocarcinoma in situ(ACIS)核は均一に腫大し、細胞質からの突出や羽毛状構造がみられる。(Papanicolaou. stain. a x 20, b x 20)

内頸部型では、頸管円柱上皮に類似する癌細胞からなり、細胞は結合性が強く、核の偽重積を伴う柵状の集塊が出現する(図3c)。高分化型では高~中円柱状を、中・低分化型では低円柱状を示す。核は偏在傾向を示し、過染性で偽重層がみられ、細胞質には粘液を有している。一般に核小体は目立たないが、低分化型では大型核小体もみられる。類内膜型は細胞の結合性が強く小集塊状に出現する。小型で円形の核は著しい偽重後層を示し、細胞質の粘液はないか、あっても腺腔側の細胞表面のみである。核の過染性が少なく、小型核小体を認めることが多い(図3b)。腸型では大腸粘液腺由来の腺癌に類似し、細胞質に多量の粘液をもつ杯細胞が含まれている(図3a)。

細胞学的に上皮内腺癌と微小浸潤腺癌の鑑別は、1)羽毛状構造、2)核の大小不同・多形成、3)高度な核過染性、および4)核分裂像の増加などの所見が微小浸潤腺癌でより明確に認められるとされているが、逆に羽毛状構造と核分裂像は上皮内腺癌の特徴であるとする報告もある⁴⁻⁶⁾。我々の検討では、上皮内腺癌、微小浸潤腺癌では結合力の強い、2~5層の核重積性を示す柵状配列や、辺縁が不整な平面的配列“いわゆる羽毛状構造”が上皮内腺癌や微小浸潤腺癌の全例に認められ、両者の鑑別は困難であった(図5a,b)。

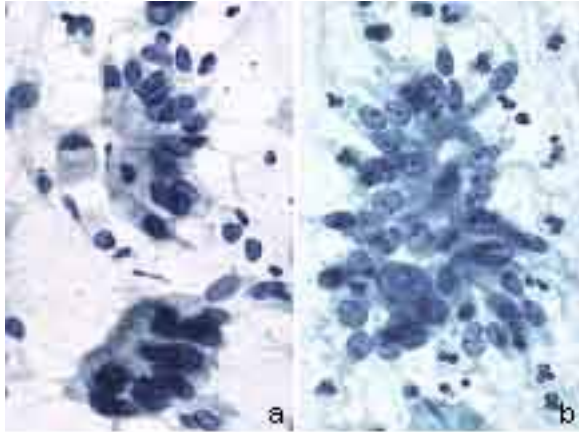


図 5 a,b 微小浸潤腺癌 微小浸潤腺癌では羽毛状構造, 核の大小不同・多形成, 高度な核過染性, および核重積性を示す柵状配列や, 辺縁が不整な平面的配列“いわゆる羽毛状構造”が微小浸潤腺癌に認められた。(Papanicolaou. stain. a × 20, b × 20)

5. 浸潤腺癌

a. 浸潤腺癌

子宮頸部腺癌は細胞質に粘液を含む粘液性腺癌が最も高頻度にみられる。粘液性腺癌は内頸部型と腸型に亜分類され, 内頸部型は悪性腺腫と絨毛腺管状乳頭癌に細分類される。

(1) 粘液性腺癌

粘液性腺癌のなかで内頸部型腺癌は最も頻度が高く, 一般的に遭遇する腺癌である。細胞学的には高円柱状でヘマトキシリンに淡染する粘液を含有し, 核は低在する(図 6a,b)。

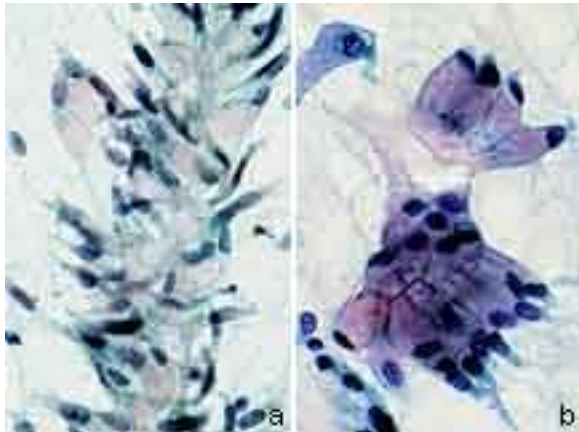


図 6a,b 粘液性腺癌 分化型内頸部型腺癌は高円柱状でヘマトキシリンに淡染する粘液を含有し, 核は低在する。(Papanicolaou. stain. a × 20, b × 40)

低分化型では一般的に認められる立体的な球状あるいは不規則な集塊として出現する(図 7a,b)。

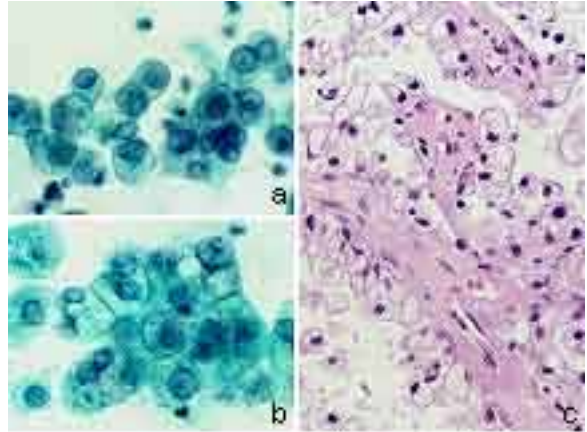


図 7a,b 粘液性腺癌 低分化型では一般的に認められる立体的な球状あるいは不規則な集塊として出現する。(Papanicolaou. stain. a × 20, b × 40 HE. stain. c × 20)

悪性腺腫 adenoma malignum

高分化型腺癌の一つである悪性腺腫の出現形態や核所見は上皮内腺癌や微小浸潤腺癌にきわめて類似しており, 細胞診の限界がうかがわれた。しかし, 興味ある所見として, 上皮内腺癌や微小浸潤腺癌では細胞質内の粘液がヘマトキシリン好性であったのに対して, 分葉状頸管腺過形成 Lobular endocervical glandular hyperplasia (LEGH)ならびに悪性腺腫では, 黄色調に染色され, 鑑別の一助になる(図 8a,b,c)^{7,8)}。

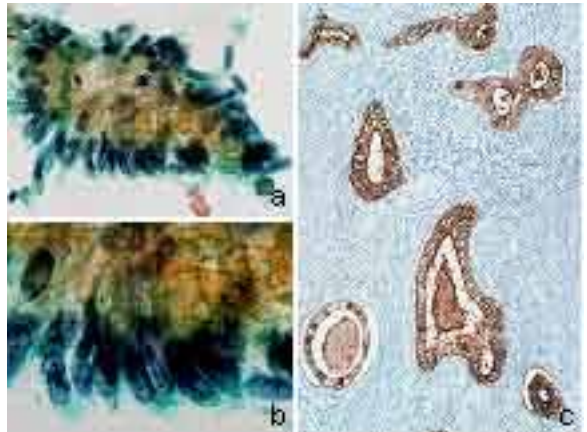


図 8a,b,c 悪性腺腫 adenoma malignum

悪性腺腫では, 黄色調の粘液を有する腺細胞でおおわれた不規則な細胞集塊が認められ, これらを構成する細胞は軽度の大小不同, 核の腫大, 核小体の顕在化, 核内細胞質封入体を認める。粘液は MGGMC1 抗体で陽性に染色される。(Papanicolaou. stain. a × 20, b × 40 MGGMC1. c × 20)

また, 悪性腺腫では, 全周性に黄色調の粘液を有する腺細胞でおおわれた不規則な細胞集塊が認められ, これらを構成する細胞は軽度の大小不同, 核の腫大, 核小体の顕在化, 核内細胞質封入

体を認める。子宮頸部の細胞診で黄金色の粘液を認めた場合には、悪性腺腫のみならず LEGH などの良性病変が存在することを考慮し検索することが肝要であると考えられる⁹⁻¹¹⁾。

関連事項：分葉状頸管腺過形成 Lobular endocervical glandular hyperplasia (LEGH)

LEGH は偶発所見として認められることもあるが、高度な例では悪性腺腫と同様、著明な水様帯下が見られ、頸部に多数の小嚢胞性増殖性の病変が深く入り込んだ像として描出されることから、臨床的にも悪性腺腫を疑われることがある^{10,11)}。また、子宮頸部細胞診でも黄色調粘液や 1) 悪性腺腫の細胞学的特徴のひとつとして報告されている、細胞集塊の辺縁を全周に黄色調の粘液産生性の高円柱状細胞で柵状に覆われている大型シート状集塊 (図 9a,b,c), 2) 柵状配列などを悪性腺腫の特徴的な細胞所見とする報告がある^{7,8)}。

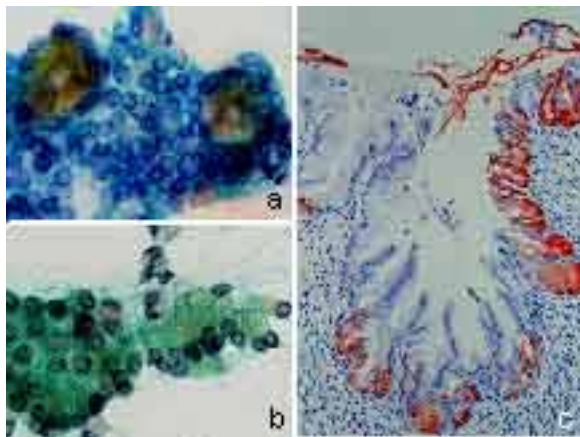


図 9 a,b,c 分葉状頸管腺過形成 Lobular endocervical glandular hyperplasia (LEGH) LEGH の核の大きさは均一かつ小型で、円形～類円形を呈し、核クロマチンは微細顆粒状で分布も一様であった。核小体は欠如ないし微細なものが 1 個程度認められる。(Papanicolaou. stain. a × 20, b × 20 MGTGMC1. c × 20)

しかし、このような細胞集塊は腺異形成、LEGH などの非腫瘍性疾患でも高頻度に認められ、両者を鑑別する根拠にはならない。このため LEGH の多くが悪性腺腫と誤認されてきたことは想像に難くない。しかし、このような集塊は他の腺系病変ではほとんどみられないことより、LEGH や悪性腺腫を推測する重要な手がかりになる。LEGH と悪性腺腫を鑑別する重要なポイントは核異型の程度、細胞集塊の形態であり、粘液の色調は参考所見として捉えて診断すべきであると考えられた (Table 1)。

Table 1 Cytologic Findings LEGH/PGM VS Adenoma malignum

	LEGH	Adenoma malignum
Golden-Yellow Mucin	++	++
Tumor diathesis	-	-
Inflammation	~±	~±
Quantity of cells	+~++++	+~++++
Cord structure	++	+
3D clusters	-	-
Monolayered sheet	+~+++	+~+++
Multilayered strips	~±	~±
Acini/rosettes	~±	~±
Feathering	~±	~±
Nuclear features		
Nuclear enlargement	+	+~+++
Irregular nuclear contour	-	+
Prominent nucleoli	-	+
Mitoses	-	~±
Hyperchromasia	~±	+
Chromatin texture	mildly coarse	mildly-moderate coarse
Nuclear to cytoplasmic ratio	slightly-mildly increased	mildly increased
Overlapping nuclei	-	+
Loss of polarity	-	+

すなわち、LEGH の核の大きさは均一かつ小型で、円形～類円形を呈し、核クロマチンは微細顆粒状で分布も一様であった。核小体は欠如ないし微細なものが 1 個程度認められるのみであった。これに対して悪性腺腫の核は不整形で、顕著な大小不同、核クロマチン構造の粗造化や核小体の明瞭化が認められた (図 8a,b,c)。核内細胞質封入体は、LEGH では約半数の症例で明瞭な核内細胞質封入体や核溝がみられた (図 10a,b,c)。悪性腺腫でも同様の封入体が認められたが、他の腺系病変ではほとんど封入体は認められなかった⁶⁻⁸⁾。

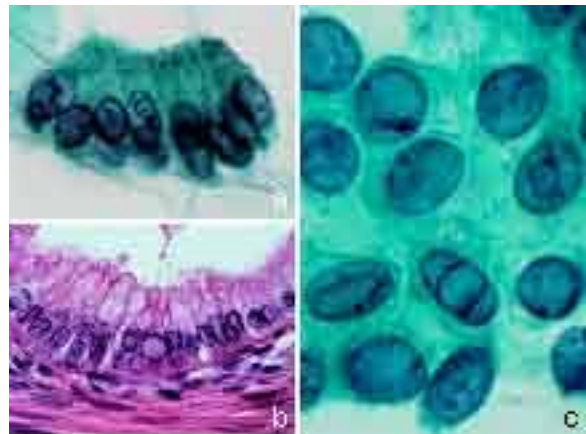


図 10a,b,c 分葉状頸管腺過形成 Lobular endocervical glandular hyperplasia (LEGH) 核内細胞質封入体は、LEGH では約半数の症例で明瞭な核内細胞質封入体や核溝がみられる。(Papanicolaou. stain. a × 20, c × 100 HE. b × 20)

絨毛腺管状腺癌

絨毛腺管状腺癌は結合性が強く、複雑に分岐した乳頭状集塊として認められる。また、一部が剥離し、血管結合織を芯とした乳頭状集塊としてみられる (図 11a,b)¹²⁾。

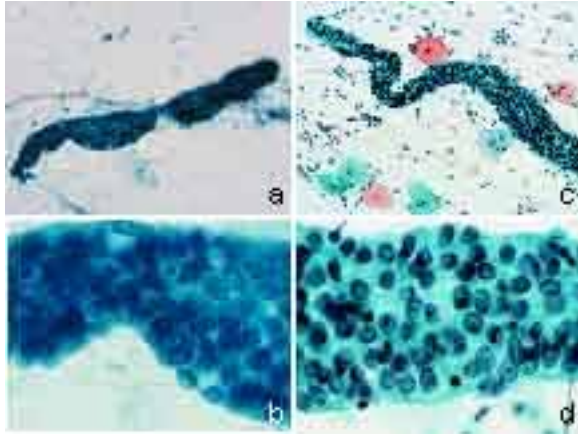


図 11 a,b,c,d 絨毛腺管状腺癌 VS 乳頭状頸管炎 絨毛腺管状腺癌は結合性が強く、複雑に分岐した乳頭状集塊として認められる。また、一部が剥離し、血管結合織を芯とした乳頭状集塊としてみられる(図 a,b)。このような集塊は慢性炎症の乳頭状頸管炎でも認められるが、集塊辺縁の核の不整や突出像が鑑別のポイントとなる(図 c,d)。(Papanicolaou. stain. a × 10, b × 40, c × 10, d × 40)

このような集塊は慢性炎症の乳頭状頸管炎でも認められるが、集塊辺縁の核の不整や突出像が鑑別のポイントとなる(図 11c,d)。

(2)明細胞癌

子宮頸部明細胞腺癌は diethylstilbestrol (DBS) の経胎盤性の体内曝露が原因で、暴露された女性の 2/3 に発生し、vaginal adenosis や膣奇形を合併することが報告されている¹³⁾。子宮頸部擦過細胞診では、レース状の淡い豊富な細胞質を特徴とする。また一部にホブネイル hobnail 状の細胞をみることがあるが、細胞診により明細胞腺癌と診断することは困難とされている。しかし、子宮頸部などに発生する明細胞腺癌でも硝子様物質を取り囲む細胞集塊、いわゆる“型”の collagenous stroma”が、出現した場合、診断のポイントとなることがある(図 12a,b,c)¹⁴⁾。

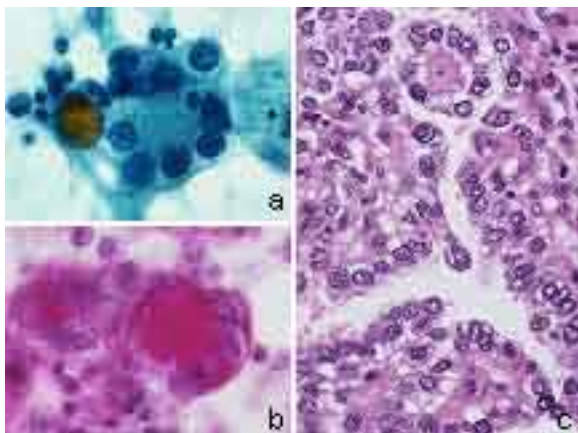


図 12 a,b,c,d 子宮頸部明細胞腺癌 子宮頸部などに発生する明細胞腺癌でも硝子様物質を取り囲む細胞集塊、いわゆる

“型”の collagenous stroma”が、出現した場合、診断のポイントとなることがある。(Papanicolaou. stain. a × 10, b × 40, c × 10, d × 40)

なお、基底膜物質を取り囲む、粘液球を認める腫瘍には、きわめて稀ではあるが腺様嚢胞癌がある。腺様嚢胞癌は、一般的に小型で、大小不同に乏しい腫瘍細胞で構成され、核も類円形で均一である点が鑑別のポイントになる(図 13a,b,c,d)¹⁹⁾。

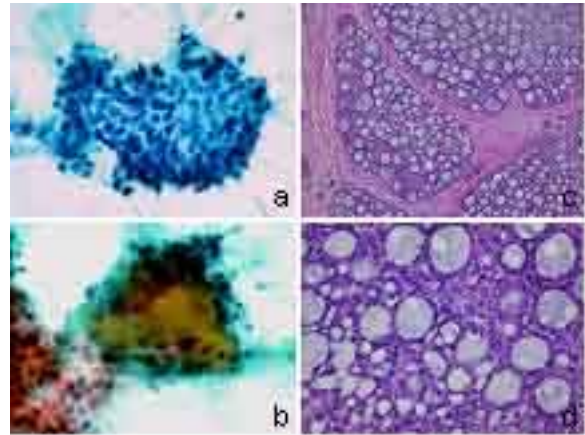


図 13 a,b,c 腺様嚢胞癌 基底膜物質を取り囲む、粘液球を認める腫瘍には、きわめて稀ではあるが腺様嚢胞癌がある。腺様嚢胞癌は、一般的に小型で、大小不同に乏しい腫瘍細胞で構成され、核も類円形で均一である点が鑑別のポイントになる。(Papanicolaou. stain. a × 40, b × 40, c × 20)

スコアリングを用いた子宮頸部腺系病変の評価結果

子宮頸部腺上皮内病変の病理組織学的診断基準として 2003 年 Ioffe らは¹⁶⁾ 核の偽重積性、核の異型度、核分裂像ないしアポトーシス像の出現率を 0~3 の 4 段階に分け、それぞれの合計で 0~3 は良性、4~5 は腺異型、6 以上は上皮内腺癌に分類し子宮頸部腺上皮内病変を客観的に診断する方法を作成した (Table 2)。

Table 2 Method of diagnosing the modified Ioffe scoring system

Feature	score
Stratification	
None (no stratification or without cord structure)	0
Mild (up to one third of the epithelial thickness)	1
Moderate (up to two third of the epithelial thickness)	2
Up to the luminal surface	3
Nuclear atypia	
As normal	0
Small (size of normal) or slightly enlarged uniform nuclei, minimal hyperchromasia, disparity, no nucleoli	1
Nuclear enlargement (up to 3 × normal), moderate anisocytosis, hyperchromasia, disparity, occasional small nucleoli	2
Large nuclei (>3 × normal), marked anisocytosis, hyperchromasia, severe disparity, frequent prominent nucleoli	3
Mitoses and apoptoses	
None	0
Positive	1
Golden-Yellow Mucin in Cord structure glandular cells	
None	0
Positive	1

Total score: 0-3 = benign, 4-5 = endocervical glandular dysplasia (EGD), 6-8 = adenocarcinoma in situ

Ioffeらのスコアリング・システムを用いた子宮頸部腺系病変を検討した結果、スコア合計は非腫瘍性病変 1.88, 腺異形成 3.49, LEGH 3.77, 悪性腺腫 4.24, 上皮内腺癌以上 6 であった(表 5)。一方、線毛化生(卵管上皮化生)を示す柵状配列集塊では核の偽重積性(スコア 3), 核の異型度(スコア 2)がみられスコアの合計が 5 で腺異型となった。

・続発性性子宮頸部腺癌

続発性腫瘍は Abramsら¹⁷⁾によれば癌で死亡した症例の 0.3%に転移がみられたと報告している。当大学では子宮外原発の腫瘍細胞が出現した症例は 50,302 例中 23 例(0.046%)であった。これらの原発臓器は、子宮外生殖器が 8 例(34%), 性器外臓器が 15 例(65.2%)であった。性器の中では卵巣が 7 例(30.4%), 卵管が 1 例(4.3%)であった。性器外臓器では、結腸が 6 例(26.1%)と多く、次いで乳腺が 4 例(17.4%)(図 14a), 泌尿器が 2 例(8.7%)(図 14b), 胃, 盲腸, 血液疾患がそれぞれ 1 例(4.3%)であった。細胞診断上、腫瘍性背景がみられたものは 4 例(17.4%)と少なく、他の 19 例(82.6%)には壊死物質は認められなかった。多くの転移性腫瘍は粘膜下に認められ、表層は正常の上皮で覆われていることが多く、その細胞像は比較的きれいな背景に認められることがあるので、見落とさないよう注意が必要である。一方、大腸原発例では汚い背景に高円柱状の細胞の柵状配列がみられた。乳癌原発例では細胞質内に細胞質小腺腔を伴う類円形細胞が出現していた。

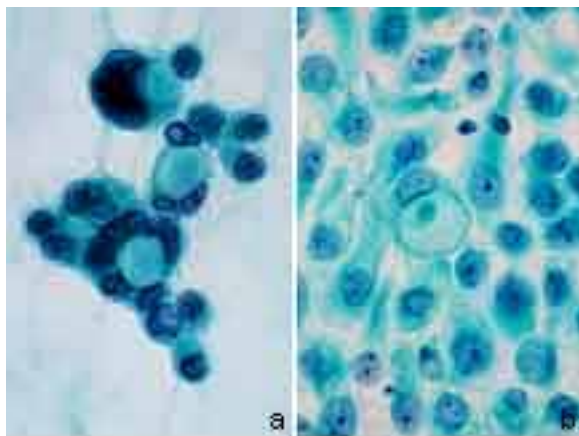


図 14 a,b 続発性性子宮頸部腺癌 乳腺(図 28a), 移行上皮癌(図 28b) 多くの転移性腫瘍は粘膜下に認められ、表層は正常の上皮で覆われていることが多く、その細胞像は比較的きれいな背景に認められることがあるので、見落とさないよう注意が必要である。(Papanicolaou. stain. a × 40, b × 40)

・まとめ

今回はベセスダシステム 2001 を主軸とした細胞分類を用い、子宮頸部扁平上皮系では異型扁平上皮細胞 (ASC) ならびに squamous intraepithelial lesion (SIL) について説明した。子宮頸部腺系病変では腺異型細胞(AGC), 腫瘍性疾患を疑う腺異型細胞, 腺上皮内癌, 腺癌の 4 つのカテゴリーについて細胞所見を中心に概説した。また、分葉状頸管腺過形成(LEGH)ならびに悪性腺腫との細胞学的鑑別ポイント、ならびに子宮頸部腺上皮内病変では Ioffeらの病理組織学的診断基準を用いた、子宮頸部腺系病変の客観的なとらえ方について説明した。本稿が日常の子宮頸部病変の診断に寄与することを願う。

文献

- 1) Solomon, D., Nayar, R.: The Bethesda System for Reporting cervical cytology. 2nd ed., Springer, New York, 2004
- 2) Zaino, R.J.,: Symposium part I: adenocarcinoma in situ, glandular dysplasia, and early invasive adenocarcinoma of the uterine cervix. Int J Gynecol Pathol. 2002, 21: 314-26
- 3) van Aspert-van Erp AJM, van't Hof-Grootenboer AE, Brugal G, et al.: Endocervical columnar cell intraepithelial neoplasia. I. Discriminating cytomororphologic criteria. Acta Cytol, 1995, 39: 1199-1215
- 4) Bousfield, L., Pacey, F., Young, Q. et al.: Osborn R. Related Articles, Links Expanded cytologic criteria for the diagnosis of adenocarcinoma in situ of the cervix and related lesions. Acta Cytol. 1980, 24: 283-96
- 5) Lee, K.R., Manna, E.A., Jones, M.A. : Related Articles, Links Comparative cytologic features of adenocarcinoma in situ of the uterine cervix. Acta Cytol. 1991, 35: 117-126
- 6) 畠 榮, 大杉典子, 鐵原拓雄, 他: 子宮頸部腺癌の細胞学的特徴 - 特に上皮内腺癌, 微小浸潤癌, 浸潤癌について - 日本臨床細胞学会岡山支部会誌, 1995, 14: 23-26
- 7) Hata, S., Mikami, Y., Manabe, T.: Diagnostic significance of endocervical glandular cells with "golden-yellow" mucin on pap smear. Diagn Cytopathol. 2002, 27: 80-84
- 8) 畠 榮, 秋山 隆, 濱崎周次 他: 悪性腺腫と鑑別を要する分葉状頸管腺過形成の細胞所見の見方と捉え方 日臨細胞学会雑誌, 2006, 45: 134-140
- 9) Nucci, M.R., Clement, P.B., Young, R.H. : Lobular endocervical glandular hyperplasia, not otherwise specified: a clinicopathologic analysis of thirteen cases of a distinctive pseudoneoplastic lesion and comparison with fourteen cases of adenoma malignum. Am J Surg Pathol 1999, 23: 886-891
- 10) Mikami, Y., Hata, S., Fujiwara, K. et al. : Endocervical Glandular Hyperplasia with Intestinal and Pyloric Gland Metaplasia: Worrisome Benign Mimic of "Adenoma Malignum" Gynecologic Oncology 1999, 74: 504-511
- 11) Mikami, Y., Hata, S., Melamed, J. et al. : Lobular

- endocervical glandular hyperplasia is a metaplastic process with a pyloric gland phenotype histopathology , 2001, 139: 364-372
- 12) Ajit.D., Dighe,S., Gujral,S.: Cytologic features of villoglandular adenocarcinoma of the cervix. Acta Cytol. 2004 , 48: 288-289
 - 13) Herbst, A.L., Scully. R.E.: Adenocarcinoma of the vagina in adolescence, a report of 7 cases including of clear cell carcinomas. Cancer 1970, 25: 745-757
 - 14) 畠 榮,鐵原拓雄,三宅康之 他: 卵巣明細胞腺癌の細胞像 日臨細胞学会雑誌, 1996, 35:549-555
 - 15) 上房敏子,安西弦,蔵本博行他: 子宮頸部原発腺様嚢胞癌の1例,日臨細胞学会雑誌, 1986, 25: 1103-1108
 - 16) Ioffe,O.B., Sagae,S., Moritani,S., et al. : Proposal of a new scoring scheme for the diagnosis of noninvasive endocervical glandular lesions. Am J Surg Pathol. 2003, 27: 452-460
 - 17) Abramas,H.L., Spiro,R., Goldstein,N.: Metastases in carcinoma, analysis of 1000 autopsied cases. Cancer. 1950, 3: 74-85

ベセスダシステム導入に際して - 有用性と予測される問題点 -

埼玉社会保険病院 是松元子

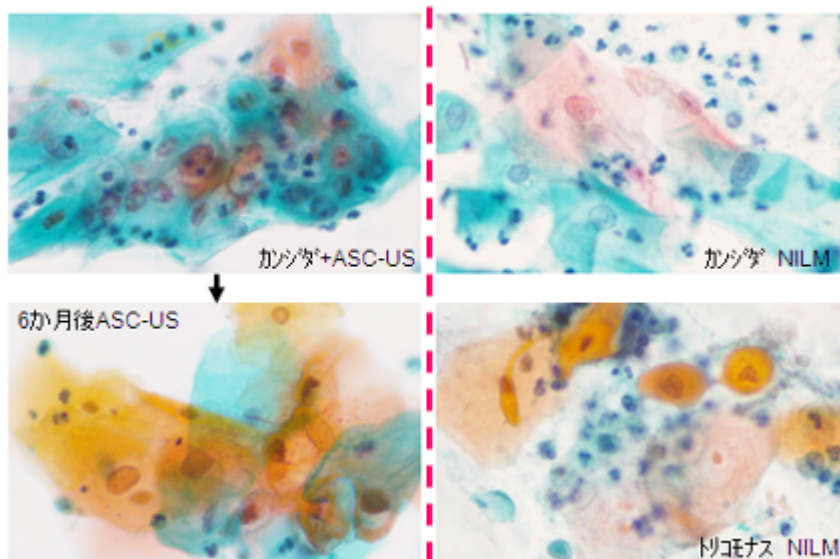
婦人科子宮頸癌細胞診報告様式として従来広く使用されてきた日母分類に変わってベセスダシステムに移行する施設が増えてきている。この報告様式は標本の適正評価が明記され、従来はクラスという記号でしかなかった報告から記述式に病変を推定することになり、上皮内病変を HPV 感染と発癌に関するエビデンスにより、軽度異形成と中等度異形成の間に境界が設けられた。また、異常が否定できないが確定できない細胞に関して ASC、AGC というグレーゾーンを設けているという特徴がある。質のよい標本の確保のためには適正評価が重要であるが、不適正標本増加を避けるためには臨床医との密接な信頼関係と連携が不可避である。今回はこの問題は割愛し、細胞判定上問題となると思われる部分について述べる。

日母分類の問題点の一つである施設や観察者の解釈の違いにより出来上がってしまったいわゆるローカルルール是正のためにもグレーゾーン判定をきちんと使用する必要がある。ASC に関しては細胞の異型が SIL に足りないものと、SIL 以上の病変が疑われるが、異型細胞が極端に少ないものが含まれる。

1

炎症か
ASC-US か

炎症の場合

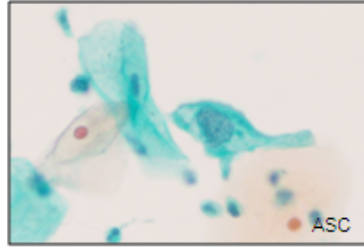


ASC-US については、HPV 感染を示唆するといわれている koilocyte の判断(特に核異型の判断)が観察者によって異なる。表・中層型で軽度な核腫大を示す細胞の判断も分かれる。HPV の影響以外で出現する軽度な異型細胞を広く拾うことがないように注意すべきである。

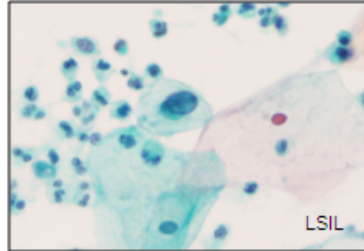
2

ASC-US 経過観察の 有用性

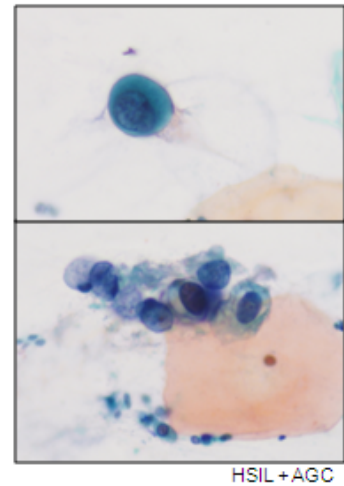
2年前 妊娠中
異形成か脱落膜細胞か？



1年前 異形成か(少数)



現在 異形成と腺の異型細胞

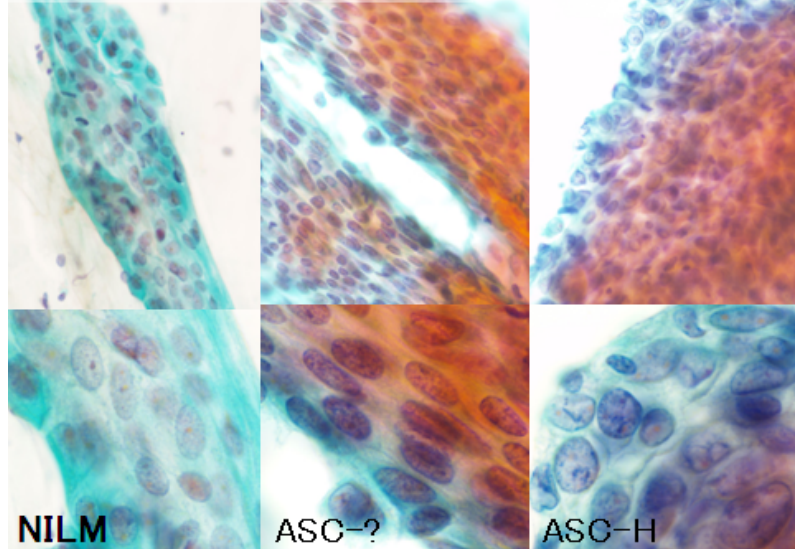


ASC-H については小型化生様細胞の異型の捕らえ方、萎縮における傍基底細胞集塊の異型性の判断が分かれる。標本採取が綿棒から擦過法に移行することにより良性の予備細胞増生や異型化生などから多くの深層細胞が採取されるようになり、HSIL と鑑別が難しい細胞に遭遇する機会が増えている。HSIL は高度病変へ進行する確率が高い病変であるので、判定に迷う場合は ASC-H 判定は有用である。

3

萎縮の異型の 判断の難しさ

密在するシート・パターンの問題点



腺系細胞に関してはこれまで経験する頻度が少ない分さらに細胞像で悪性から良性まで意見が分かれる可能性がある。AGC 判定される中には細胞異型が弱い AIS や高分化腺癌が含まれるが、癌であっても細胞採取量が少ない場合も稀ではない。遭遇する頻度は少ないが予後の悪い頸部の腺癌を見落とさないためにも AGC 判定は有用である。

これらのグレーゾーン判定は、今まで正しく出来ていた細胞診断の判断を甘くするためのものではない。細胞の判定基準は全く変更されていないことを改めて念頭に入れておく必要がある。やむを得ず判定に迷う細胞に関してのみ誤陰性をなくすために ASC や AGC 判定を行い、正しく判定できるものはいままで通りしっかり判断していく姿勢が大切である。

2009-2010

コンピュータ・ワンダーランド

それでもウイルスはやってくる...

危険な香りのPCオタク **K's Presents**



素敵なメモリー、
くださいな！

[ご挨拶]

最新の情報をお届けするために、苦勞して書き上げるのを延ばしている(?)K です(編集長ごめんなさい)。今回こそは早く書き上げようと思い、始めたのは暮れも近づく寒い日でしたが、今はもう桜が咲いています。(散らん間に早よ書け！)

[この辺からたぶん本文]

では気を取り直して、Windows7も発売され、XP でもまだまだいけると思っていただけとちょっと不安になっている今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。たぶんXPはもう少しは大丈夫と思います。まだ、XPの乗ったPCが売られていますから。けれど、そろそろ買い換えを検討しても良いのでは？

今回は、新しいネタがあまりないので(Windows7はどうした！)、身近なことを中心に書きたいと思います。まずは前回同様ウイルスの話題から。まだUSBウイルスがとっても流行っています。私が勤めているとされている倉敷のとあるK大学病院では、セキュリティーの問題回避のためオーダリングのLAN回線(以下、院内LAN)は、インターネットにつながる回線(以下、院外LAN)とは切り離して、独立させています。これは個人情報漏れや、外部からのウイルス侵入を防ぐ意味では非常に良い方法なのですが、それでもウイルスはやってきます。飛沫感染ならぬUSB感染がその原因です。院内LANでのUSB使用は原則禁止で、特定の部署でのみ許可されています。しかし、大学病院に限らずこの世界では、診療データをまとめて発表に使うことを日常的に行っています。使いたいデータは院内LANの中、データをまとめるのは院外LAN、発表に使うのは学会のPCとなれば、データの受け渡しは何らかの方法が必要です。これによく使われているのがUSBメモリで、最大の感染源となっています。それと、

忘れちゃいけない個人情報保護の問題もあります。紛失した USB メモリから個人情報が流出するとそれこそ新聞沙汰になります。これはUSBメモリに限らず、各種メモリーカードでも同じで、デジカメ専用として SD カードを使っている、PCにコピーする時点で感染してしまいます(これに何度もやられた)。参考のために現在、我々がやっている方法を紹介しておきます。先にも書いたように病院として原則的に USB メモリは使用禁止で、電カル端末は USB ポートを無効にしている院内 LAN 内ではファイルサーバを介してデータの受け渡しをします。データを取り出すときには、情報システム室で USB メモリを検閲後、書き込みしています。ただし、情報システム室は業務時間内+ の対応なので、学会間近にデータを取り出そうと思っても、夜中の対応が無い場合パニックになる人もいます(おっ、お前のことじゃ〜 K を知る人より)。病理部では、画像やデータを臨床に渡す機会が多いため、病院に許可を受け USB メモリに出力を行っています。これには PASSWORD 付きの USB メモリを使用しているので個人情報保護の観点からは良いのですが、ウイルスにとっては無効です。そこで返却の際には必ず検疫用の PC でチェックしてから再利用する方法をとっています。実際に運用してみると返却 USB の数割が感染しています。いかに臨床医の PC が危険かがわかります。もちろん感染していたことの連絡をして駆除に努めていますが、皆さんも十分気をつけてください。

[電子カルテ]

とうとう K 大学病院にもこの度、電子カルテが導入されました。この規模の病院としてはかなり遅い方だと思います。電子カルテソフトもさぞかし成熟しているだろうと期待していたのですが…。今回はこの話をしたいと思います。

オーダーリング導入の話をつい最近書いたと思います。前回はすでに導入済みの院内オーダーリングに病理オーダーリングを追加する話でしたが、今回は病院全体がベンダーを替えて電子カルテに乗り換える大がかりな話です。病院中にワーキンググループ(以下 WG)ができあがり、私も病理 WG のリーダー(別に医師の責任者がいる)に任命してもらい、約 1 年間努力してきました。前回のオーダーリング導入の大きな目標は、病理結果を電子報告すること、検体の多い内視鏡オーダで二重入力を避けて楽に運用できること、会計情報の変更や追加を電子上で行うことでしたが、web を使ったオーダや局所的な電子カルテ運用などで何とか満足するシステムを構築することができました。今回は、紙を使わない電子データのための報告と、予約オーダが難問でした。電子報告は前回も行っていましたが、結果が何時出たのかがわかりにくく、見逃してしまうため紙報告書の返却も同時に行っていました。病理以外の検査では当日や、翌日には確実にレポートが電子報告されるので、わざわざそれを知らせる必要は無いのですが、病理検査の場合は、固定や脱脂、脱灰だけでも数日延長し、免疫や追加検索をすればまた延長、難解症例では何時結果が出るのか予想もつきません。そのため特に組織検査では結果が出たことを知らせる仕

組みが必要と考えました。しかし、他院では知らせはほとんど行われておらず、今回の電子カルテシステムにもその機能も概念もありませんでした。これになんとか自動的にメールによるお知らせ機能をつけることやパニックデータの緊急メールを発信する機構を作り上げました。それから予約オーダですが、尿や喀痰細胞診、骨髄生検などは以前より予約で検査を行っていましたが、これをオーダリング上で行うことは前回できませんでした。一見簡単そうに思えますが、患者の動き、検体の取り合い、ラベルや課金の確定やオーダ権限などが複雑に絡み合いかなり難問でした。そのため今回は、中検、医事、看護師、病理、ベンダーが何度も会合し、運用を決めていきました。ベンダーの話では、病理で予約を行っている施設は皆無のようです。今回のシステムは先進的なので病理関連の機能も充実していると期待していましたが、期待が大きすぎたのか、さっぱりという感じでした。やはり病理については会計や報告、同意、項目内容など検体数の割に複雑なので、あるだけましと考えなければならないようです。(ガッカリ)まあ、なんやかんやで導入もすみ、大きなトラブルも、止まることもなく今も何とか営業しています。

[ウルトラモバイルパソコンについて]

前回、通訳にいたるからと言って無理矢理買ったウルトラモバイルパソコンですが、まだご健在です。ただし、チョット問題が出ています。このパソコン、4万5千円で購入し、たまにしか使いませんが毎日カバンに入れて通勤しています。学会や、買い物に付き合わされるときにはとても重宝しています。発表では間際まで修正はできるし、買い物のお供では、忠犬ハチ公のように何時間でも待つことができます(コーヒーと喫煙所とお菓子と...etcがあればですが)。ハードディスクの代わりに4+8GBのメモリが入っているので、振り回しても壊れることはありません。ところで問題というのはこの4GBのCドライブ(速いメモリ使用)で、OSだけでも割と大きいのですが、ソフトを入れるとすぐにいっぱいになります。MS Officeとかは8GBのDドライブ(チョット遅いメモリ使用)にインストールできるのですが、OSはそうはいきません。知らず知らずの内にBACK UPや作業ファイルが貯まって、気がつけば「エラー・メモリが足りません～」状態です。先日も、講義中に勝手にシャットダウンされて焦りました。そこで今回、メモリの増設を考えていました。が、調べてみると購入時は最安だと思ったウルトラモバイルPCは、各社がどんどん値段を下げ、3万円を切る価格で同等の性能を持つものまで販売されていました。これでは高いメモリに交換するよりも、新しいPCを買った方がお得な気がします。メモリをとるべきか新PCをとるべきか、それが問題で未だ買えずにいます。トホホ。

(メモリの話は質問コーナーへと続く...)

毎度おなじみ！



質問コーナー (お～来た！)

Q 最近、我が家のパソコンの動きがとても遅い気がするがして友人に話したら、「メモリーの問題じゃないの？」って言われたんですけど、メモリーって何ですか。英語ではメモリー = 思い出と憶えましたが、パソコンも「思い出」を持っているって事？

A 質問のメモリとは PC の世界では「記憶」と訳した方が良いみたいですが、PC 内部に実装する小さな基盤のことで RAM(ランダム アクセス メモリ)とも言います。これは CPU が作業をする机のようなもので、広い方が作業効率が良いのですが、OS の種類で広さの上限があります。また、メモリの種類には大きさのほかに読み書きのスピードや DIMM や SIMM などのいくつかの方式があります。メモリは大きく速いほうが良いのですが、実装できるメモリ基盤の数はマザーボード上のメモリスロットルと呼ばれる受け口の空き数によります。ノートパソコンでは空きスロットルがわずかな場合が多いので、増設したくても交換しかできないこともあります。本文中のウルトラモバイル PC のメモリ増設の話では空きスロットルが無いために交換(換装とも言う)することになります。余った元のメモリを USB メモリにする製品もありますが、通常は捨てるしかありません。ピンボア症の筆者はこれを考えると今日も眠れません。

PC の動作とメモリの関係では、小さいメモリの場合、画像や動画などの大きなデータを扱うと、CPU の作業スペースが不足してエラーになったり、プログラムによっては終了してもメモリを解放できずに占有してしまうためメモリ不足になります。止まらないにしても動作が不安定になったり遅くなったりします。このような場合、あきらめて再起動してください。えっ今、再起動した！？データを保存してからの方が……。

ところで、この質問にあるメモリとパソコンと「おもいで」に関係があるか検証してみました。私も知らない初期のコンピュータのメモリには、1mm 程度のドーナツ状の形態をしたフェライトコアに銅線を通した「コアメモリ」を使っていました。縦横に配置されたこのコアに通電することで磁性化し、電源を切っても情報を記憶できたようです。ただし、一個のコアで 1bit ですから現在のように 1 ギガも実装しようものならコアが 1mm でも 100m 四方にもなり、相当な重量ですから、晴れてパソコンもメモリという「重いデ～」を持つことになりますということで検証終了。メダシメダシ。

それではまた、質問お待ちしております。

超個人的音楽論



青春歌年鑑/70年代ベスト40 Part 5

完結編。

ううう長かったなあ、ここにたどり着くまで。5年もかかっちゃったよう。自分で立てた企画とはいえ、こんなに大変だとは思ってもよらなかった。とりわけ、前回より始めた全曲総当たり戦方式になってからというもの、もう長い長い。もちろん今回も全曲総当たり戦は続くのだが、よく考えたら78年、79年分と、まだ60曲が残っているわけで、「わーい終わりだ終わりだ」とのんびり構えている暇はないのであった。さあ、ゴール目指してラストスパート、チカラの限り走り抜けるぜい。

《研究熱心な1978年》

筆者は17歳の高校2年生。学校にも慣れ、受験にはまだ間のある中だるみの時期である。学校では暇さえあれば音楽室にこもり（音楽室にはギターの部屋があり、十数本のギターが置かれていた）、うちに帰れば歌本片手にギターの練習。研究熱心はよかったが、どう思い返してみても勉強していた記憶がないという、いささが（周囲的には）弱ったもんだ、ってな時期であったかもしれない。

この時期の音楽シーンを語るうえで忘れてはならないのが、当時、若者に圧倒的人気のあった歌番組「ザ・ベストテン」であろう。その名の通りランキング番組ではあったのだが、ここでのランキングが音楽シーンに与えた影響は少なくない。音楽シーンがランキングを作り、作られたランキングが音楽シーンを新しい方向に引っ張っていく、不思議な相乗効果を作り出していた稀有な時代であった。そんな「ザ・ベストテン」の記憶などを織り交ぜつつ、78年のラインナップを順に眺めていこう。

78-1 君のひとみは10000ボルト（堀内孝雄）

1978年はアリス大ブレイクの年である。その証拠に、この年のラインナップ30曲中に3曲もアリスのナンバーが含まれている。ま、それはそれとして、ここでは堀内孝雄について、である。

いまや演歌界の大御所的地位を確立した堀内孝雄であるが、アリス時代の堀内孝雄のパフォーマンスを見てきたものにとっては、堀内孝雄と演歌の組み合わせに、若干の違和感を感じずにはいられない。なぜならば、アリスにおいての演歌歌手的役回りは谷村新司のものであり、堀内孝雄はといえば、むしろフォーク色あるいはポップス色の傾向が強い歌手であったからである。たとえばアリスのライブアルバム（2nd ライブ）を見てみると、谷村・堀内それぞれがソロで歌うコーナーでは、谷村新司「噂の女」であるのに対して堀内孝雄「アンチェインド・メロディ」と、上記を裏付ける選曲がされている。「君のひとみは10000ボルト」は、堀内孝雄のソロナンバーとして最大のヒット曲であるが、どこをどう聞いてもここから演歌方面への流れは見えてこないだろう。

ご承知の通り、ドラマ主題歌である「愛しき日々」の大ヒットをきっかけとして、堀内孝雄の演歌系参入は始まった。とはいえ、「愛しき日々」は演歌なのか、と問われたなら、演歌の範疇に入れるには、いささか抵抗ありと答えざるを得ない。アリス大ブレイク以前からアリスの曲に親しんできた者には、「紫陽花」なんかと別に変わらないじゃん、みたいな感じもないではないだろう。私としては、最近の曲も含め、明らかに堀内孝雄の楽曲は、旧来の演歌とは別のところにあり、とりあえずのジャンル分けとして仕方ないから演歌に入れられているような気がするわけであるが、皆さんはどうだろうか（ま、どっちでもいいか？）。世の巡り合わせとは、実に不思議なものだと思う。

78-2 微笑がえし（キャンディーズ）

この年のキャンディーズ解散は、解散当日に至るまでのカウントダウンの時期も含めて、間違いなく78年日本音楽界あるいは芸能界における最大級のトピックスであった。そして、台風でもやってきたかのようなカウントダウン大盛り上がりの風を受け、キャンディーズ史上、唯一のベストテン第1位を獲得した楽曲が、ほかならぬ「微笑がえし」である。であるが、ここでは「微笑がえし」についての楽曲的考察はひとまず置いておき、解散劇の顛末を中心に論考を進めていきたい。

この年のキャンディーズ解散を、また、そこに向かうカウントダウンの異常ともいえるような熱狂状態をどうとらえるかは、その当時の年齢層によって大きく異なるのではあるまいか。

ある人々は、これを「仕掛けられた茶番劇」と呼ぶであろう。彼らの言い分は、こうだ。「あれほどまでに大騒ぎしておきながら、キャンディーズ3人のうち2人までもが、再び芸能界に戻ってくるじゃないか」。なるほど、おっしゃる通り。大見得を切って「普通の女の子」に戻ったはずの3人だったのに、いつの間にか芸能界復帰を果たした2人。そりゃないんじゃないの、てな気持ち理解で

きなくはない。もちろん、復帰しようがしまいが、解散劇を利用した芸能プロダクション主導による一大イベント(当然それによって、相応の収益が見込まれる)に違いないと裏読みされる方々も多いだろう。このような「解散劇否定派」は、この当時、年代的に20代後半から上(著者推定)に多くみられる傾向があったようだ。

その一方で、キャンディーズ解散を「日本芸能史上最大級の感動的メモリアル」ととらえる「解散劇肯定派」も少なくない。当然のことながら、この人々は、解散カウントダウンの盛り上がりを下支えし、「微笑がえし」をヒットチャート第1位に押し上げた、当時の10代~20代前半の若年層である。

というわけで、当時17歳であった筆者は、言うまでもなく、圧倒的に、肯定派だ。ただし、私が肯定派なのは、熱心なキャンディーズ・ファンであったからではないので、そこんところよく、と申し上げておこう(なにが「よろしく」なんだか...)

「歌は世につれ世は歌につれ」という文言を引き合いに出すまでもなく、歌はそれを耳にただけで、時を越えて、あるいは場所を越えて、その歌をリアルタイムで聴いたあの時、あの場所へと導いてくれるものである。まさに絶大なるタイムトリップ・パワー!。「微笑がえし」を聴くたびに、私は(おそらくは私と同年代の多くの方々も、と推測するが)解散カウントダウンのあの当時へと引き戻される。そのころ自分がどんなことを考え、どんな景色の中で暮らしていたのか、そして、幾分の切なさを内包するあの春先の空気感さえもが鮮明に蘇ってくるのだ。それは、当時の私が17歳という多感な時期にあったからだろう。もう少し年齢が上であったなら、あるいは下であったなら、このような感覚を抱くことはなかったかもしれない。この、時のめぐりあわせによって刻まれた記憶、そこにいざなう引き金ともいべき「微笑がえし」。解散後の展開がどうであれ、私にとっての「微笑がえし」は、ただこの1点において意味を持つ。私が肯定派である所以である。

78-3 Mr.サマータイム(サーカス)

ご存知かと思うが念のため申し上げておくと、サーカスは男女2名ずつからなる4人組のコーラス・グループである。「Mr.サマータイム」で登場してからしばらくは、「叶3姉弟(正子、高、央介)+従姉」といった純粋血縁系コーラス・グループであったが、若干のメンバーチェンジを経て、現在は「叶3姉弟+央介の嫁さん」という、親族系コーラス・グループになっている。

日本の比較的メジャーなコーラス・グループを眺めても、家族あるいは血縁者をベースにした家内制手工業的アプローチをとっているコーラス・グループは少ない気がするがどうだろうか。

血縁者によるコーラスの圧倒的な利点は「声質が近い」ことである。それゆえに声は違和感なく混じり合う。Mr.サマータイムに限

らず、サーカスの楽曲を聴いてみれば、それは一目...いや、一耳瞭然。あくまでもソフトに重なりあい、溶け合う声に癒される方も多いであろう。

だが、これはある意味ではもろ刃の剣でもある。良くも悪くも、声がケンカしない。それが是か否かは聴く側の判断だが、コーラス・グループのアプローチとしては、あえて声をケンカさせて(つまり、それぞれのパートがギリギリのところまで主張して)そのうえで全体としての平衡状態にもっていく、といったやり方もあるわけで、少なくともサーカスには、その選択肢は存在しないのだ。

ともあれ、「Mr.サマータイム」は、この年の夏を代表するヒット曲となったわけである。サーカスといえば「Mr.サマータイム」。「Mr.サマータイム」といえばサーカス。「Mr.サマータイム」はサーカスの代名詞だ。

78-4 迷い道 (渡辺真知子)

「迷い道」は、渡辺真知子のデビュー曲。ここでは、ついでに2nd シングルの「かもめが翔んだ日」も併せて、渡辺真知子論を展開していきたい。

先に申し上げておこう。自慢じゃないが、筆者は渡辺真知子に関して、ばかに詳しい人間である。今、この文章を読んでいただいている方で私以上に詳しい者はまずいないと自負している。渡辺真知子論として論文1本くらいなら書けるんじゃないか、という気もしているわけである。たとえば、あなたは次の問いに答えられるだろうか。「渡辺真知子のリリースしたオリジナル・アルバムのタイトルを10個あげなさい」。正解できる方はほとんど皆無であろうと思う。しかし、私にはできる。しかも、そのアルバムはすべて自宅にある。どうだ、まいったか。

というわけで、非常に突っ込んだところまで論を展開してもよいのだが、そんなの誰にもわからないことになりかねない(いや、きっとなる)ので、ここではごくごく一般的な、みなさまご存知の範囲でお話をさせていただくことにしたい。

「迷い道」を初めて耳にした時の感想は「しっかりした発声で、歌うまいなあ」であった。それもそのはず、声楽科の出身である。続く「かもめが翔んだ日」では、その曲作りの巧みさに舌を巻いた。その後、1st アルバム、2nd アルバムと相次いでリリースされ、曲に詞を乗せることの巧みさを、また曲としてのまとまり感を作り出すことに非凡な力を感じさせてくれた。ただし、これは、先々のアルバムにおいては(意識的であったのかもしれないが)影をひそめることになる。

もうひとつ、渡辺真知子のイメージといえば「海」だ。これは、彼女の出身地(横須賀)に関係するところが大きいのだろう。たしか自身でも、インタビュー記事などで海に対する思い入れなどを語

っていたと記憶している。

同様に海をイメージさせるミュージシャンといえば、加山雄三、サザンオールスターズ、TUBEなどが思い浮かぶが、こちらの扱う海は、自らがそこに飛び込んで行ってたわむれるイメージの海、一方、渡辺真知子の楽曲で扱われる海は、少し離れて眺めている海、たとえば、港の風景を想起させるような海である。

海をテーマにした渡辺真知子の楽曲には名曲が多い。「かもめが翔んだ日」が世に最も広く知れ渡っている楽曲であることは言うまでもないが、そのほかにも(曲名をあげてもほとんどの方はご存じないであろうけれど...)数多く存在するのである。とりわけ1stアルバム「海につれて行って」は、そのタイトルからもわかるとおり、海に対する思い入れを前面に押し出したものであった。このアルバムでは、すべての作品を編曲した船山基紀先生の手さばきにも、そのあたりのこだわりを意識した跡が見て取れる。

さて、余談になるが、渡辺真知子ファンに「渡辺真知子の曲の中で何が一番好きか」をアンケート調査すると、きまってある曲が第1位に選ばれるのだそうだ。その曲は「迷い道」でもなければ「かもめが翔んだ日」でもない。残念ながら、青春歌年鑑ではセレクトされなかった、彼女の3rdシングル「ブルー」なのだという。「あ、私、ブルー好き!」という方に、最後にコアな「ブルー」情報をお伝えしてこの項目の締めとしよう。ほとんど知られていないが、「ブルー」には、皆様お聞き及びのものとは異なる別バージョンが存在する。これは、アルバム「B m 愛することだけすればよかった」に収められているピアノ伴奏バージョンである。ちなみに、ピアノを演奏しているのは故・羽田健太郎氏。聴いてみたい方、筆者までご一報を(LPでよければうちにあります)。

78-5 時には娼婦のように(黒沢年男)

タイトルからもわかるとおり、この曲のキモは作詞家・なかにし礼の手によるあまりにも刺激的で過激な歌詞にある。今聞き直してみても、1970年代によくこれを書いたなあと恐れ入る。ついでに、それを違和感なく歌いきった黒沢年男にも脱帽だ。

78-6 宿無し(世良公則&ツイスト)

「あなたのバラード」に続くツイストの2ndシングル。順序が逆になるがこの後のラインナップで登場する1stシングル「あなたのバラード」も併せて講釈しよう。

「あなたのバラード」「宿無し」、ついでに「銃鉄(ひきがね)」あたりまでは、バンド名がまだ「世良公則&ツイスト」の時期である。「世良公則&」が取れて、ただの「ツイスト」になるのはもう少し先だ。もっとも、「世良公則」が付いていようがいまいが、イメージとしては世良公則+バックバンドの皆さんのバンドであ

ることに違いはないが…。バンドの中で、かろうじて顔と名前覚えているのは、ドラムの「ふとがね金太」くらいか。個性的すぎるボーカルを抱えたバンドの悲しきさだめではある。

当時の歌謡界において、こういったシャウト系のボーカルを擁するバンドは、メジャーな音楽シーンではまれであったと思う。彼らの躍進には、冒頭でも触れたとおり、ザ・ベストテンという歌番組が大きく影響している。そうそう、「銃鉄」って10週連続第1位をとったよねー、なんてなことを懐かしく思い出される方もいらっしゃるだろう。今、冷静に思い返してみると、「銃鉄」がそんなに何週にもわたって1位を取り続けるほどすごい曲だったのかどうか、いささか疑問であるが、それほどにツイスト人気は爆発的であったわけだ。これもこの年のトピックスの一つとして差し支えないであろう。なんだか78年の音楽界はトピックスだらけ、勇者乱立の戦国時代的様相である。

78-7 プレイバック Part 2 (山口百恵)

ある意味で、山口百恵の到達点は「プレイバック Part 2」なのではないかと思うのだが、どうだろうか。正確には、山口百恵の、ではなく、山口百恵と宇崎・阿木コンビの、というべきであろう。歌いこなした山口百恵もすごいが、曲を作った宇崎・阿木もすごい。ちょっと作れないよ、こんな曲。これ以外の楽曲であれば、やりようによって誰かがカバーすることも可能だろう(実際、カバーされている曲もある)。でも「プレイバック Part 2」は無理だ。手を出さないほうがいいと思う。

ついでにもう1曲、この年のラインナップ入りを果たした「絶体絶命」。こちらはかつてリリースされた「イミテーション・ゴールド」あたりの路線を狙った楽曲であろうか。

78年段階、山口百恵伝説は、まだ序章に過ぎない。百恵伝説の真骨頂は79年。そのあたりについては、79年のラインナップであらためて語ることにしよう。

78-8 冬の稲妻 (アリス)

「冬の稲妻」でアリス大ブレイク。これまた、この年の本邦音楽シーンにおけるトピックスの一つといえるだろう。もちろん「冬の稲妻」以前も、アリスはそこそこの知名度を誇る存在ではあったわけだが、テレビの歌番組で頻繁にお目にかかるバンド、というわけでもなかった。それが「冬の稲妻」以降、まあ出るわ出るわ。歌番組でアリスの姿を見ないことがないほど出まくるようになったわけである。この状況、旧来からのファンにとってはうれしいようなうれしくないような複雑な心境であった。

「冬の稲妻」がこれほどまでに売れたのはなぜだろうか。この曲とそれ以前の楽曲と何か違いがあるのか。私の見るところ、ここで

の成功のキーワードは「単純化」ではないかと思われる。冬の稲妻のコード進行は4つのコードがただ順繰りに回っていく、これ以上単純化しようがない極めて単純なものだ。歌詞内容も、ほとんど含みのない単純な内容である。次のシングルとなった「涙の誓い」は、旧来のアリスの楽曲路線に戻った感じではあるが、続く「ジョニーの子守歌」は再び単純化作戦が決行されている。ここでの単純化作戦決行にはアリスの並々ならぬ決意が見て取れるのである。ひょっとすると「背水の陣」的な心境でリリースされたのではないのか。もちろん、この作戦が成功すると踏んだ根拠には、それまで長年にわたって積み上げられた実績の裏打ちがあったからであろう。たとえば言うならば、コップに少しずつ溜められた水は、あふれる寸前のぎりぎりのところまで来ていたのだ。そして、あと1滴ばかり水を足してやれば、コップの水はどっとコップの淵からあふれる。問題は、この一滴の足し方だった。コップから水を溢れさせるきっかけ、すなわち、人気をブレイクさせる最後のひと押し、それが「単純化」だったのではないかと私は考える。

78-9 ジョニーの子守唄（アリス）

78-8「冬の稲妻」を参照

78-10 飛んでイスタンブール（庄野真代）

庄野真代は、なんだか不可思議な存在である。歌声はとてもしっくりしていてアクがない。けれど特徴がないかといえば、そんなことはない。1度聴くと忘れない声なのである。1/f ゆらぎ系か？。

庄野真代について詳しく研究したことがないので、はなはだしい加減ではあるが、彼女がシンガー・ソングライターなのか、あるいは単にボーカリストとして世に出てきたのか、そのあたりはよく知らない。少なくとも、「飛んでイスタンブール」は彼女の自作ではないが、自ら作詞作曲を手掛けた作品も多いことは確かだ。

一般に知られる楽曲としては、この「飛んでイスタンブール」、そして、それに続く「モンテカルロで乾杯」あたりだと思われるが、個人的に一番好きな楽曲をあげると言われたなら「ジョーの肖像」と答えるだろう。ご存知の方は少ない、かな？。

78-11 かもめが翔んだ日（渡辺真知子）

78-4「迷い道」を参照

78-12 あんたのバラード（世良公則&ツイスト）

宿なしを参照

78-13 冬が来る前に（紙風船）

昔々のことじゃった。あるところに、赤い鳥というフォークソ

グのグループがあったそう。ある時これが、別れ別れになった。この中の3人がハイ・ファイ・セットになり、また別の2人は紙風船となったそうじゃ。ほかにもメンバーがおったそうじゃが、行方は知らん(申し訳ない)。

というわけで、夫婦デュオ紙風船の最大のヒット曲が「冬が来る前に」である。デュエット曲としては、ハモリ部分も含めて比較的歌いやすかったことがヒットの要因であろう。

78-14 絶体絶命(山口百恵)

78-7「プレイバック Part2」を参照

78-15 東京ららばい(中原理恵)

中原理恵と聞くと、歌うたっているところよりも欽ドン「良い妻、悪い妻、普通の妻」を思い出しちゃうなあ。「東京ララバイ」については、フラメンコ風のギター・アレンジがよかったなあ...というくらいで、ほかにはコメントございません。

78-16 かもめはかもめ(研ナオコ)

かもめはかもめ、カエルの子はカエル。え、そういうことじゃない?、こりゃまた失礼いたしましたっ。

...と、どうでもいい前フリで始めてみました。

中島みゆきが研ナオコに提供した作品は数多い。そして中島作品は、研ナオコの声や歌唱スタイルになじみがいい。その中でも、最高の仕上げと思われるのが、この「かもめはかもめ」だ。中島みゆき自身もセルフカバーでこの曲を歌っているが、研ナオコには及ばない。それほどにこの曲は、研ナオコのイメージ、声、歌い方、いずれにもドンピシャはまっている。おまけに、編曲がすばらしい。これまで、大講釈の原稿を書くにあたってはほとんど調べ物をせずに自分の思い込み一つで延々講釈してきたのであるが、気になるので編曲者を調べてみた。若草恵(わかくさけい)氏だそう。ごめん、知らない。

ひとつの興味として、前述の渡辺真知子がこの楽曲を歌ったらどうだろう、と思うことがある。ぜんぜん違う「かもめはかもめ」になっておもしろいんじゃないかな。

78-17 涙の誓い(アリス)

78-8「冬の稲妻」を参照

78-18 林檎殺人事件(郷ひろみ&樹木希林)

テレビドラマ「ムーン族」の劇中曲として歌われた、ドラマのキャストでもあるおなじみの二人のデュエット曲(と言っていいのだろうか?)。基本、郷ひろみの音域に合わせて作られたと思われる

曲なので、樹木希林の歌う女性パートの音域はキツそうである。

78-19 キャンディ（原田真二）

天才、原田真二。かの吉田拓郎に見いだされてデビューしたと聞いた記憶がある。吉田拓郎を驚愕させたという、その天賦の才。

デビュー曲「ていーんず ぶるーす」で、ピアノを弾きながら歌う、それまでの男性歌手には見られなかったスタイルの斬新さとともに、巻き毛で童顔のアイドル的ルックス、さらには独特のハイトーン・ボイスと、極めて高い評価を得た音楽性、これらがあいまって、大人気を獲得した。「キャンディ」は彼の2ndシングル。タイトル、ルックス、声と、三位一体の攻撃に、女心は（あるいは母性本能は）大いに揺さぶられたことと想像される。しかしながら、たんなるアイドルとしてだけではない、その裏に潜む音楽性の高さは、好き嫌いの問題は別として、男性にも一目置かれるところがあった。

近年、平和問題に絡むイベントにミュージシャンとして登場することが多い彼だが、すでに「キャンディ」の頃のイメージはない。あたりまえか、もう50歳くらいのオジサンだし。

78-20 さよならだけは言わないで（五輪真弓）

大ヒット曲「恋人よ」へのプロローグとも言えるこの曲。この後にリリースされた「残り火」もなかなかよい。

五輪真弓といえば、デビュー曲の「少女」に見られるように、なんだか小難しくひねりまくったコード進行の曲を歌う人、といったイメージを長らく抱えていたのであるが、「さよならだけは言わないで」のあたりから、やや曲調が単純化されてきた感じである。アリスの項でも述べたとおり、この時期の本邦音楽界のキーワードは「単純化」にあるような気がする。つまりは、音楽に勢いがあったこの時代、その勢いに小難しいひねりなどは邪魔になるだけだったのかもしれない。

78-21 ブルースカイブルー（西城秀樹）

以前に講釈した西城秀樹シリーズの続きである。前回の講釈（1977年の巻き）で、西城秀樹の音楽史は3期に分類されると書いた。そして、特筆すべきはこの中の第3期であるとも。

おさらいしておく、第1期は、「傷だらけのローラ」を頂点とする激唱アイドル期、第2期は「ブーメラン・ストリート」周辺のヤングアダルト・アイドル期。

そして、第3期。「ブルースカイブルー」「若き獅子たち」「YOUNGMAN」と、単なるラブソングの域を超えた、人間愛を歌い上げるという方向性を打ち出したのである。すなわち、この時期の西城秀樹は、国民的歌手的スーパーアイドル期と形容できる所に立っていた。最大のヒット曲が「YOUNGMAN」であったこと

に異論はないが、個人的な嗜好としては「ブルースカイプルー」のスケール感が好きだ。

78-22 夏のお嬢さん (榊原郁恵)

近年、歌手としてのイメージはあまりなくなった榊原郁恵。でもこの当時はバリバリのアイドル歌手であり、グラビア・アイドルでもあったのだった。その証拠に、この年、この曲とともにもう1曲「いとしのロビン・フットさま」もラインナップに名を連ねているではないか。もちろんここには曲名があがっていないが、立て続けに数曲がこの年のヒットチャートを大いににぎわせたのであった。

いかにもアイドル然とした曲が多い中で、個人的には尾崎亜美作曲の「風を見つめて」が唯一、今も好きな楽曲。ちなみに、尾崎亜美自身もセルフカバーで歌っています (アルバム「POINTS 2」だったかな...、ちがうか)。

78-23 ANAK (息子) (杉田二郎)

「ANAK (息子)」は、カバー曲である。えっ、そうなの?、と思われる方もおられるだろう。そのくらい、すでに「ANAK」は杉田二郎の歌になっちゃっているわけだ。加藤登紀子も歌っていたが、もちろん彼女の作った曲でもない。私の記憶では、フィリピンのシンガー・ソングライター、フレディ・アギラが作り、歌った曲のはずである。

78-24 いとしのロビン・フットさま (榊原郁恵)

78-22 夏のお嬢さんを参照。

78-25 バイブレーション～胸から胸へ～ (郷ひろみ)

この曲調、筒美恭平大先生の作曲に違いないと思いながら、自信がないので調べてみたら、都倉俊一作品であった。

78-26 闘牛士 (Char)

いまやギター界のカリスマ的存在である Char も、先にリリースされた「気絶するほど悩ましい」「逆光線」とともに「闘牛士」あたりでは、お茶の間への浸透を意識したアイドル路線的なアプローチをとっている(というか、とらされていたのだろうなあ、きっと)。「闘牛士」では、なんだかほんとの闘牛士的な衣装で歌ってなかったっけか。もちろん衣装にかかわらずギターは抱えていたのだが。ちなみに「気絶するほど...」～「闘牛士」で作詞を担当しているのは、故・亜久悠氏。

78-27 ドール (太田裕美)

サビの部分で繰り返される「ドール」の「ル」の発音が、「ル」

と「ウ」の中間あたりに聞こえ、このいかにも太田裕美らしい舌足らずさがたまらない、というコアな太田裕美ファンもきっと多いであろう。

78-28 横浜いれぶん（木之内みどり）

現在は竹中直人（映画監督・俳優）の夫人。木ノ内みどりといえは、歌手というよりも女優のイメージが強い気がする。すなわち、歌に関してはご愛敬程度といったところのいわゆるアイドル系。思い返してみると（といっても、個人的にはあまり思い返すほど入れ込んでなかったのだが）、ルックスおよびその扱われ方は清純派の王道を行く存在であった。

78-29 暖流（石川さゆり）

「暖流」ってどんな曲だったっけ?? やはり、石川さゆりのイメージは、どうしても「津軽海峡冬景色」もしくは「天城越え」あたりにつながっていくのであり、「暖流」と聞いても、頭の中にパッと曲が出てこない。聴けば思い出せるだろうか...、しかし、タイトル見てても、まったくひとかけらも曲のイメージすら浮かばない。講釈不能。

78-30 青春の影（チューリップ）

不朽の名作「青春の影」。チューリップの曲でこれが好き！ベストテンってな調査したら、おそらく上位、ことによると堂々の1位に輝く可能性も否定できない名曲中の名曲である。いや、チューリップの、と限定するまでもなく「なにしろこの曲が好き！」という方も多いに違いない。

ピアノ伴奏のバラードに財津和夫の声はよくなじむ。彼の、あのボーカルであったからこそその名曲でもあるわけである。姫野達也でなくて幸いであったと思う。

ザ・ベストテン1色のイメージが強い1978年。当然、この年のベスト・セレクトも、そこでの上位の曲を選ばざるを得ないだろう。というわけで、この年のわがベストセレクトは、

微笑がえし（キャンディーズ）

Mr. サマータイム

プレイバックPart 2

かもめが翔んだ日

かもめはかもめ

ブルースカイブルー

青春の影

《夢見る 1979 年》

いよいよ本企画の最終章、1979年のラインナップにとりかかる。この年、筆者は高校3年、受験シーズンに突入である。よって、79年の楽曲については、勉強に夢中だったのであまりよく覚えていない。と、言いたいところだが、妙にしっかり講釈できてしまう私が悲しい。

記憶をたどってみても、熱心に受験勉強に励んだ思い出は見当たらず、それを裏付けるかのように「うひゃー、テストすぐなのに、なんもやってねー、どうすんだあ、どうすんだあー！！」みたいな悪夢に、今でもときどきうなされる。後悔先に立たず。

79年の30曲を眺めてみると、自ら作り自ら歌うスタイルのアーティストの曲が圧倒的な大勢を占め、従来の主流であった歌謡曲は影を潜めつつある傾向が見て取れる。すなわち、時代は自己プロデュースの力を求め始めたということであろう。そんな中で、歌謡曲の範疇からそのワクを飛び越えるかのごとき山口百恵の大活躍は、79年の邦楽界における大きな潮流としてわれわれの記憶に今も残っている。もちろんここでも、キーワードとなるのはプロデュース力。彼女の場合、自己プロデュース力とともに、他個プロデュース力(宇崎・阿木ならびにその他数名のアーティストによる)も実に強力であったわけだ。夢見るような群雄割拠の1979年。というわけで、そんな夢がらみの楽曲から、この年の講釈をスタートしよう。

79-1 夢追い酒(渥美二郎)

演歌系の男性歌手は「堅物・苦労人系」と「軟派・遊び人系」に分類される(中間型もあるが、ここでは考えないことにする)。渥美二郎は、前者の代表格、テレビの画面で眺める限りでは、芸道精進で真面目一本、生まれてこのかた演歌一筋みたくに見受けられる風貌である。風貌だけではない。歌い方もこれまた真面目。遊ばないし、崩さない。年を経るごとに、自分のヒット曲のメロディーを変えてみたり、バカに間をとってタメを入れてみたりする歌手が多いが、渥美二郎には(おそらく)その傾向は見出せないだろう。きっちり検証したわけじゃないが、たぶん間違いない。渥美二郎とはそういう人だ(と勝手に決めている)。

79-2 魅せられて(ジューディ・オング)

高校3年といえば受験。受験といえば、受験勉強。受験勉強といえば、ラジオの深夜放送。当時の高校生は、だいたいそういうことになっていたのである(で、勉強してたのかというと、ただラジオ聴いてただけだったりする)。今考えるとどうしてそんなことができたのか不思議でならないのだが、当時私はけっこう朝方までラジオを聴いていた記憶がある(しかし授業中寝ていたわけではない)。

不思議だ...」。「バック・イン・ミュージック」が終わるのが午前3時。そこで寝ればいいのに、そこからさらに「歌うヘッドライト」を聴く。私が最初に「魅せられて」を耳にしたのは、この「歌うヘッドライト」の中でだったと記憶している。この曲がリリースされたばかりの、ほとんど世に知られていないころ。誰もが寝静まっている真夜中にラジオから流れる「魅せられて」。この時点ではまさかヒットするなんて思ってもいなかったが、そのあと、あれよと言う間にヒットチャートを駆け上がり、とうとうレコード大賞まで取っちゃったのだ。私には見る目がなかったと思う。しかし、よく考えると、30年も前の深夜放送で「魅せられて」を聴いた、と記憶しているということは、それなりにこの曲に対してインパクトを感じたということでもあろう。それなら、多少なりとも見る目は、いや、聞く耳はあったのかもしれないな。

79-3 YOUNG MAN (西城秀樹)

ビレッジピープルの「YMCA」のカバーであるが、本邦においてはもう誰もそんなことは意識の外だ。そう言って差し支えないほどに、この楽曲は西城秀樹のものになってしまった。西城秀樹最大のヒット曲である。「すばらしいYMCA!」YMCAっていったい何のこと?、なんて考えるだけ無駄だ。ここでのYとMとCとAは、ただこの曲の振りのためにだけ存在する記号である。

79-4 よせばいいのに (敏いとうとハッピー&ブルー)

敏いとうとハッピー&ブルーは、謎のグループである。第1の謎は、なんといってもリーダーの敏いとう。故・ナンシー関のコラムにも取り上げられていたとおり、なんだか謎の多い人物なのである。歌手活動以外にもいろいろやってるみたいだが、その活動もまた謎。敏いとうとはいったいいかなる人物であろうか。

次に謎なのが、リード・ボーカルの森本さん。独特のソフトでウェットな低音、そして抜群の歌唱力を誇る歌手としての森本さんには別に謎な部分などない。でも、森本さんご本人のパーソナルな部分には、そこはかたく謎が漂っている。「森本さんて、ひょっとして...」みたいな、何とも微妙な謎である。

そしてもうひとつの謎は、その他のメンバー。誰一人として顔が思い浮かばない。うーむ、謎だらけ。

79-5 ガンダーラ (ゴダイゴ)

テレビドラマ「西遊記(香取信吾じゃなくて堺正章の出でたやつね!)」のエンディングテーマ。ここからスタートしたゴダイゴの大躍進もこの年のトピックスであろう。同ドラマのオープニングテーマである「モンキーマジック」も大ヒットしたし、さらには、映画「銀河鉄道999」のテーマ曲もヒット・チャート独走態勢(カ

バーされたおかげで、いまだに耳にする機会が多いですな、この曲も。

もちろん、デビュー当時からバンドとしての実力には定評があった。バックを固めるのは、いずれ劣らぬスタジオミュージシャン。そこに持ってきてタケカワユキヒデの、あの独特なボーカル。英語の曲なのに日本語にしか聞こえない、ってパターンのバンドは多いけど、日本語なのに英語みたいに聞こえるバンドは珍しい。さすが、東京外大出身。

79-6 チャンピオン (アリス)

アリスの楽曲で世に最も知れ渡っている楽曲かもしれない「チャンピオン」。アリスの曲で何が好き？と聞かれて「チャンピオン！」と答える方は、私の勘では「冬の稲妻」あたりからアリスを知った方が多いと思う。それ以前からのアリスファンは、たぶんこの曲を1位には推さない。でもまあ、アリスの曲をものまねするときに使われるのは大抵が「チャンピオン」だし、アリスといえば「チャンピオン」というのが世間の認識であろう。

メンバー還暦にしてアリス再結成、そして全国ツアー。それに伴ってときどきテレビ出演する姿を目にしたが、そこで歌われる曲もやはり「チャンピオン」。ただ、私の感覚では、かつて聴いたチャンピオンよりずいぶんテンポが速くなっているような気がした(気のせいかな)。時代がせわしなくなっただけってことかも。

79-7 モンキー・マジック (ゴダイゴ)

79-5 ガンダーラを参照

79-8 カリフォルニア・コネクション (水谷豊)

最近、なんだかばかにブレイク中の水谷豊である。テレビドラマ「相棒」での人気に気を良くしたのか、セルフカバーのカリフォルニア・コネクションが再びヒットし、紅白にも出場。その後も、ドラマにバラエティにと引っ張りだこの様相だ。本人に会ったわけじゃないが、カリフォルニア・コネクションを聴くたびに、その歌い方から、きっと真面目で律儀な人なんだろうなという気がする。あくまでもイメージだが。

79-9 HERO (ヒーローになる時、それは今) (甲斐バンド)

甲斐バンドが好きだった。でも私が好きだったのは歌番組で「HERO」や「安奈」を歌っている甲斐バンドじゃない。「きんぼうげ」とか「ポップコーンをほおばって」とか「翼ある者」とか、少しアウトロー的なイメージを伴う曲こそが甲斐バンドの(甲斐よしひろの)真骨頂なのだ。やっぱりTVなんかに出るんなら、「HERO」を歌わなきゃならない大人の事情もあるのだろうけれど、「HERO」だけじゃなくて、たまには、そのへんのナンバーをやってほしいよ

なあ。そうでしょ、みなさん。「そうだ、そうだ！」の声多数（と勝手に推測）。

79-10 きみの朝（岸田智史）

私の記憶に間違いがなければ、私が初めて岸田智史の歌を聴いたのは、あるコンサート会場でのこと。私の岸田智史体験は、なんと岸田智史本人の生歌で始まったのである。その時、彼が歌ったのはデビュー曲の「蒼い旅」（記憶が確かなら、デビューする直前の時期だったはずだ）。正直、うわーうまいなーと思った。で、その後発売されたアルバム「シトロン」を買ったりなんかして、岸田智史にそこそこハマっていた時期もあった私である。

「きみの朝」は、TVドラマ「愛と喝采と」の主題歌であり、岸田智史最大のヒット曲。「も～みも～み、君の肩だよ」なんてな替え歌もありましたすな、そういえば。

79-11 セクシャルバイオレット No. 1（桑名正博）

近年この曲は、桑名正博ご本人によるよりも、コロッケのモノマネで耳にすることが多くなった。おそらく現在の日本において、桑名正博独特の歌い癖をもっとも的確かつ詳細に表現しているのはコロッケであろう（なんておおげさな！）。実際、はじめて聴いたときのコロッケのセクシャルバイオレットは、私の琴線にピンピン触れた。感動すら覚えたと言っても過言ではない。皆さんもそうじゃありませんか？、賛同される方は挙手をお願いします。

79-12 いい日旅立ち（山口百恵）

名曲「いい日旅立ち」。そのタイトルといい、歌詞に父が出てきたり母が出てきたりで、結婚式にぴったりの印象があるが、よくよく歌詞を見れば「日本のどこかにいる、私を待っている人を探して一人旅に出る」という、ある意味別れの歌ととれなくもない。いいんだろうか、結婚式で歌って。まあ、かぐや姫の「妹」を歌うよりはいいと思うけど。

79-13 アメリカン・フィーリング（サーカス）

どこかの航空会社とのタイアップでCMに使われた曲。「エア・メール」「コバルトの風」などなど、スマートでさわやかなイメージの言葉をちりばめた「空の旅へのいざない大作戦」は、サーカス独特のハーモニーとマッチして、大いに成功したのであろう。客が増えたかどうかは別にして、少なくともイメージアップには一役買ったはずである。サーカスといえば「Mr.サマータイム」という世の認識は絶対的だが、「アメリカン・フィーリング」みたいな曲調のほうがサーカスには合ってそうな気がする。

79-14 夢想花 (円広志)

「とんで、とんで」でおなじみ、円広志最大のヒットナンバー。アポロキャップを目深にかぶり、怪しげにも見える色合いのサングラス姿で登場した円広志は、最近の回想 VTR 番組で目を見ると、かなりストーカーぽい。夢想花のサビで「とんで、とんで、とんで...」と9回続けるフレーズが話題となり、歌ってるうちに何回「とんで」を歌ったかわからなくなるやつも多かったらしい。

79-15 季節の中で (松山千春)

ザ・ベストテンに出ない松山千春が、この曲でついにテレビ出演。当時はそれが大きな話題をさらった。記憶が確かなら、ギター1本で「季節の中で」を歌ったんじゃないか。

松山千春は、おそらくボーカリストとしての圧倒的な自負のもとにこれまで歌い続けてきた人なのだろうと思う。彼の歌は、常に「俺の声を聞け」とわれわれに訴えかける。そこには、ボーカリストとしての確信に裏打ちされた絶対的自信が存在しているのだ。その証拠に、彼の楽曲のほとんど(私の知っている曲の範囲ではすべて、といってよいかもしれないが)には、彼の声にかぶさるようなコーラス・アレンジは存在しない。まさに声1本の勝負である。カラオケなどで松山千春の曲を歌ったことのある方も多いと思うが、試してみるとわかるとおり、曲調が単純なわりには、実にコーラスがつけにくい。楽曲がハーモニーを拒否しているのである。

79-16 燃えるいい女 (ツイスト)

今、冷静に眺めてみると、なんだかすごいタイトルだなあ、「燃えるいい女」って。ツイストの勢いと、世良公則の声圧に押されて、当時はあまり深く考えたことがなかったが、「いい女」という語感に、なんとなく妙な違和感が立ちのぼってくる気がする。この曲の後にも先にも、タイトルに「いい女」なる言葉が含まれる曲は存在しないのではないか。

79-17 銀河鉄道 999 (ゴダイゴ)

79-5 ガンダーラを参照

79-18 美・サイレント (山口百恵)

「美・サイレント」はサイレント・ソングと呼ばれた、日本で(世界で?)唯一の楽曲である。ご存じない方に簡単に説明しておくと、この曲の途中、サビの部分にさしかかるや、山口百恵は口元からマイクをすっと遠ざける。口は動かし何か歌っているのだが、マイクが音を拾わないので何と歌っているのかはわからない。そんな、謎解きめいた仕掛けの曲である。

「あなたの、・・・がほしいのです」「燃えてる、・・・が好

きだから」の「・・・」のところに、何か歌詞は設定されているわけだが、彼女の口の動きから推測するしかないの、あそこところは「情熱」と歌ってるに違いない、いや、「真心」だ、ちょっと待て、聞かせないってことは聞かせちゃまずい言葉なんじゃないか、じつはな「 」っていつてるらしいぜ、百恵ちゃんがそんなこと(どんなこと?)言うわけないだろう!、なんだとコノヤロ! みたいな論争が繰り広げられ、製作者の思うつぼにみんなはまった。

ほんとにこの時期の山口百恵ならびに宇崎・阿木コンビには頭が下がる思いである。よくまあこんなに、あれやこれや思いつくよなあ。思いつくほうもすごいが、その思いつきを違和感なく自分の世界として表現しきってしまう山口百恵もすごい。引退というタイムリミットがあったからこそ、思いきって冒険できたのかもしれないが。

79-19 みずいろの雨 (八神純子)

八神純子は不世出のボーカリストである、と私は思う。その高音は、他に類を見ない。もちろん、高い声を売りにしている女性歌手は少なくない。けれど、八神純子の声は、その歌唱技術も含め、まちががなく別格である。もちろんそれを本人も承知の上で、作品を作っているのであろうから、もうだれもかなわないわけだ。八神純子の曲は、八神純子の独壇場であって、ちょいとカバーしてみようなんていう野望を抱くものはほとんどいないであろう。ただただ「恐れ入りました」という思いで聴き入る以外にないのである。

「思い出は美しすぎて」～「みずいろの雨」～「パープルタウン」あたりが八神純子の黄金期であったが、私は、なにしろその圧倒的なボーカルにガクゼンとし続けていた。どこかのビールの有名な宣伝コピーに「コクがあるのにキレがある」というのがあったが、八神純子の声質はそのイメージに近いような気がする。

79-20 愛の水中花 (松坂慶子)

いわゆる企画ものとしてとらえて差し支えない「愛の水中花」。確かテレビドラマの主題歌ではなかったか。ドラマの詳細はすでに記憶の外だが、おそらく、この曲のヒットには松坂慶子の衣装が大いに奏功したことと思う。それだけは鮮明に記憶している(たぶん私だけでなく、当時の同年代の男の子はみんな...)

79-21 虹とスニーカーの頃 (チューリップ)

アップ・テンポでポップ感のあるこの曲。チューリップを知らない世代が音だけ聞いてふくらませたイメージのままチューリップのビジュアルに対峙した場合、そのオッサン・テイストとのギャップに悩むかもしれない。

79-22 窓 (松山千春)

暗い。松山千春の楽曲の中でも、トップクラスに暗いこの曲。演歌系の匂いもある(?)。ひょっとして演歌好きだったのかな、松山千春。そういえば、筆者は大学時代、ある深夜番組で松山千春が北島三郎の「風雪ながれ旅」を歌う場面に遭遇したことがある。信じられないかもしれないが、ほんとの話である。

79-23 たそがれマイ・ラブ (大橋純子)

ちっちゃいのにケタはずれのパワー。声の「押し」が群を抜いて強いのは、ほとんどファルセットを使わない、その歌唱スタイルによるものであろう。もちろん、そのベースにあるのは、これまたケタはずれの音域の広さだ。だから、ファルセットなどほとんど使う必要がない。

「たそがれマイ・ラブ」は、「シルエット・ロマンス」と並んで、大橋純子の楽曲としては、世に最も知られる1曲であろうと思われる。そのおかげで、スロー・バラード系の人ととらえられがちだが、個人的にはファンキーなナンバーにこそ、この人の真価が発揮されているような気がするのだ。ぜひ、この時期のアルバム、ほかの曲も聴いてみてちょ。

余談。近年、「小柄でパワフル」を共通項として、superfly と比較されたりしている(というか、似ていると言われている)が、私の見解では、ボーカル・スタイルとして系統が異なると思う。

79-24 男達のメロディー (SHOGUN)

どうも私は SHOGUN とクリエイションがイメージとして交錯してしまうのだが、皆さんはどうですか。芳野藤丸が SHOGUN、竹田和夫がクリエイションだったはず(ともにメインのギタリスト)。どっちも知らない?

79-25 愛の嵐 (山口百恵)

けだるさを漂わせたスローテンポの出だし、そこからアップテンポへの移行、「storm, storm, storm, storm,...」と続く、楽譜化不能な旋律と不思議な虚脱感...。絶妙な曲調の展開、加えてその歌詞内容の巧みさは、歌い手側の表現力と相まって、いろいろな意味で成熟期を迎えたと解すべきであろう。百恵&宇崎・阿木チームの充実を感じさせる、この1曲。

79-26 マイレディー (郷ひろみ)

この曲のイントロでスパニッシュ風のギターを弾いていたのが、ニューブリードの現バンマス、三原綱木であったことはどなたも鮮明にご記憶であろう(忘れちゃった?)。

79-27 私のハートはストップモーション（桑江知子）

隠れた名曲、「私のハートはストップモーション」。春らしい感じの、ポップでちょっとおしゃれなイメージを持つ独特のテイスト、とくにエンディング部分のふわっとした感じはどうもどこかで味わったことがあるなあと思ったら、作曲・都倉俊一。なるほどね。

79-28 とまどいトワイライト（豊島たづみ）

豊島たづみと聞いて、あるいは「とまどいトワイライト」と聞いて、ああ、確かあんな顔の歌手だったよね、あんな曲だったよねと、即座に反応できる方は少ないかもしれない。実際、これを書いている私も、豊島たづみの風貌についてはかなり記憶が薄れつつある。

「とまどいトワイライト」は、何かのドラマの主題だったはずだ。違ったかな。アコースティックギターのイントロが印象的な、かなり暗めの歌ではあるが、作詞作曲を手掛けたのは、宇崎・阿木。この年のラインナップに「とまどいトワイライト」が名を連ねた最大の要因はどうやらそこにあるようだ。

79-29 陽はまた昇る（谷村新司）

ソロ活動における谷村新司の作品は、この曲あたりから、スケール感を前面に押し出す展開が多くなったようである。つまり、陽が昇ったり沈んだり、星がわが身を照らしたり砕け散ったり、砂塵の中をどこまでも鉄道が延びていったり、雪が海を凍らせたり眠らせたり、蝶が海を渡ったり、白い狼が天に向かって吠えたり、みたいな、フィクションの要素を多分に含んだ楽曲が目立つのである。おそらく、楽曲イメージにおけるアリスとの差別化を意識した戦略なのであろう。

79-30 しなやかに歌って（山口百恵）

次々とあの手この手の仕掛けを繰り出してきた山口百恵＆宇崎・阿木。しかしながら、この「しなやかに歌って」については、とくに奇抜な仕掛けのない、いってみれば、普通の感じの楽曲になったなあとお思いのあなた。甘い！。じつはこの曲にも仕掛けはあったのだ。名付けて「パラドックス・ソング」（私の勝手な命名ですけど）。

サビ出しで始まるこの曲、ちょっと歌ってみましょうか。「しなやかに歌って、さびしい時は、しなやかに歌って、この歌を」。さて、ここで歌詞に出てきた「この歌を」の「この歌」ってなんでしょう。そうですね。「しなやかに歌って」ですね。では、「しなやかに歌って」をしなやかに歌ってみましょう。「しなやかに歌って、さびしい時は、しなやかに歌って、この歌を」。さて、ここで歌詞に出てきた「この歌」って何？、そう、「しなやかに歌って」ですね。では「しなやかに歌って」をしなやかに歌ってみましょう

...と、この展開は、どこまでも終わりのない迷宮のように、続いていくのであった。一度聞いたが最後、歌詞はぐるぐる回り続け、もう頭の中から出ていけなくなる。これはもう、心理学的トラップと呼んでも差し支えあるまい。ううむ、阿木燿子、恐るべし。阿木燿子、あなどりがたし。

やったー、終わったー！ 青春歌年鑑 70 年代ラインナップの最後を飾る 79 年の講釈、これにて終了。

大モノ、小モノ、一発モノ、いろいろあったが、2010 年を迎えた現在でもしばしば耳にする楽曲があり、なかには再結成なんかで、その姿をごく最近見たグループもあったりして、実力者が多かったことの証左ではなかるうかと思う。このラインナップをリアルタイムで聴いてから、すでに 30 年近くが経過した。なんだか信じられないような気がするが、事実である。光陰矢のごとし&少年老い易く学成り難し。油断している間に時は流れていく。呆然としつつ、70 年代最後のラインナップから私がセレクトしたこの年のベストは次の曲。

チャンピオン

いい日旅立ち

季節の中で

銀河鉄道 9 9 9

みずいろの雨

これにて、わが 70 年代ベスト 40、完結である。

発表！

この 5 年間で選出した

わが 70 年代ベストソング 40

(by 青春歌年間)

1. 手紙 (由紀さおり)
2. 白い色は恋人の色 (ベッツィ & クリス)
3. もう恋なのか (にしきのあきら)
4. 17才 (南沙織)
5. また逢う日まで (尾崎紀世彦)

- 6.花嫁（はしだのりひことクライマックス）
- 7.あの素晴らしい愛をもう一度（加藤和彦と北山修）
- 8.水色の恋（天地真理）
- 9.喝采（ちあきなおみ）
- 10.結婚しようよ（よしだたくろう）
- 11.虹と雪のパラード（トワ・エ・モア）
- 12.心の旅（チューリップ）
- 13.個人授業（フィンガー5）
- 14.街の灯り（堺正章）
- 15.積木の部屋（布施明）
- 16.よろしく哀愁（郷ひろみ）
- 17.岬めぐり（山本コータローとウィークエンド）
- 18.思い出まくら（小坂恭子）
- 19.『いちご白書』をもう一度（バンバン）
- 20.いつか街で会ったなら（中村雅俊）
- 21.木綿のハンカチーフ（太田裕美）
- 22.横須賀ストーリー（山口百恵）
- 23.あの日にかえりたい（荒井由実）
- 24.20歳のめぐり逢い（シグナル）
- 25.津軽海峡冬景色（石川さゆり）
- 26.どうぞこのまま（丸山圭子）
- 27.マイ・ピュア・レディ（尾崎亜美）
- 28.宇宙戦艦ヤマト（ささきいさお）
- 29.微笑がえし（キャンディーズ）
- 30.Mr.サマータイム（サーカス）
- 31.プレイバックPart 2（山口百恵）
- 32.かもめが翔んだ日（渡辺真知子）
- 33.かもめはかもめ（研ナオコ）
- 34.ブルースカイブルー（西城秀樹）
- 35.青春の影（チューリップ）
- 36.チャンピオン（アリス）
- 37.いい日旅立ち（山口百恵）
- 38.季節の中で（松山千春）
- 39.銀河鉄道999（ゴダイコ）
- 40.みずいろの雨（八神純子）

《総括》

- 通り過ぎた70年代という名の季節 -

1970年から1979年までの本邦音楽シーンについて、オムニバス・アルバム「青春歌年鑑」のラインナップをベースに振り返ってきた。筆者にとっては小学校3年に始まり、高校3年に至る10年間。もしも音楽に対する感受性というものがあるとするなら、それがもっとも鋭かった時期だったろうと、今にして思う。

青春歌年鑑シリーズは大いに人気を博したらしく、80年代から90年代へ続く楽曲（ひょっとしたらその先の楽曲も？）はたまたひるがえって60年代の楽曲を取り上げ、CDの枚数だけでも、これはもう、とんでもない分量になっている（正確に調べていないが、間違いなくすごい量である）。さらには、続・青春歌年鑑と題して、最初にリリースされた青春歌年鑑シリーズには取り上げられなかった（しかし、捨てがたい）曲を中心に集めて新たにシリーズ化されたものも存在する。興味をお持ちの方はぜひ聴いてみていただきたい。

たとえば、80年代以降の楽曲についても、このままさらに講釈を続けようと思えばできないことはないかもしれない。けれど、この時期の楽曲に対する講釈は、理屈が先に立つ理に過ぎた講釈となる可能性大であり、それは避けたいところでもある（すでにわが高校時代の楽曲に関してはかなり理屈をこねている傾向があるが...）。

私にとっての感受性を測る指標は、季節感だと思う。勝手にセレクトしたわが70年代ベスト40のラインナップを眺めていると、そのいずれの楽曲にも自分にとっての明確な季節感がまちがいに存在している。私にとってのこの感覚は、70年代の楽曲に対してのみ強烈に立ちあがってくる独特な感覚であり、80年代以降の楽曲に対しては、きわめて薄いか、まったくないと言ってもよい感覚である。自己分析するなら、おそらく私の感受性の低下と比例している現象であろう。

それぞれの年代に、それぞれの印象に残る楽曲がある。もしもそこに季節感を伴っているとすれば、それはあなたの感受性に訴える大切な楽曲であったという証拠だと思う。過去を振り返るばかりでは能がないが、そんな心の中の宝物をときどきは取り出して、時間の旅、季節の旅に出てみるのも悪くないんじゃないかな。

（完）